

ひびき
き
澁

あの夜、
妹をハメた
感触だけは
覚えてる。

第1話



お兄ちゃん
好き……

抱いて……



後悔
するなよ……

ん……



あっんっ
お兄ちゃん……っ

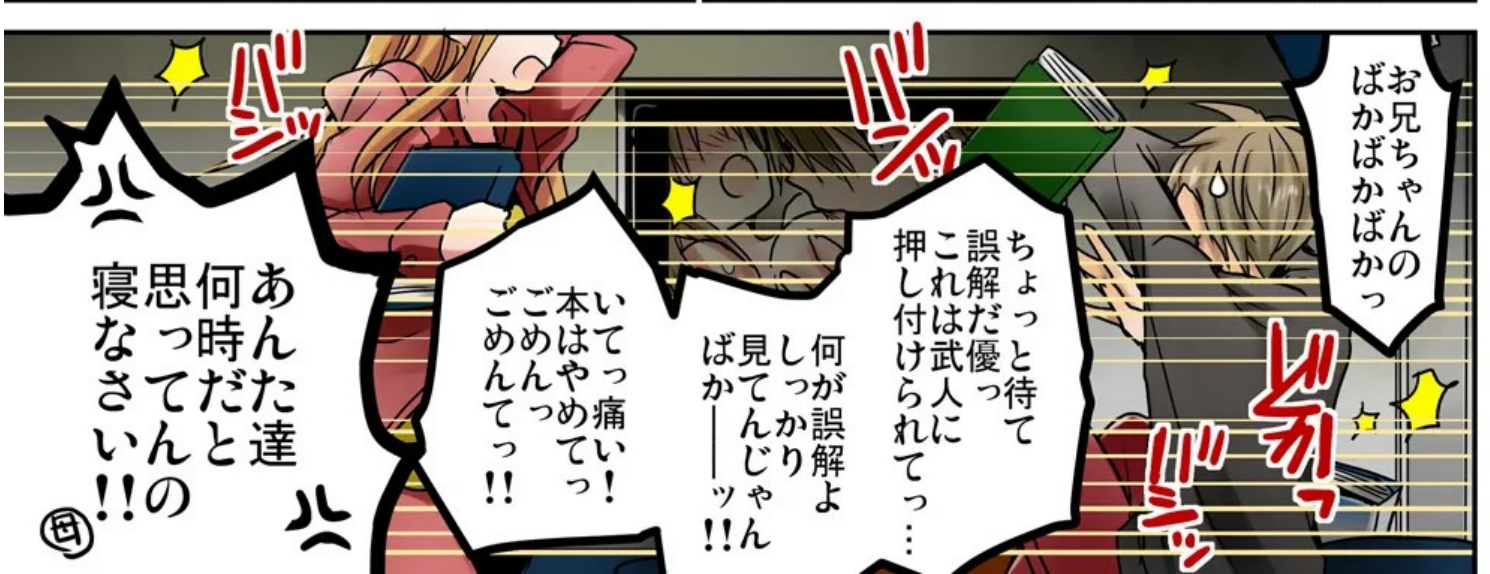
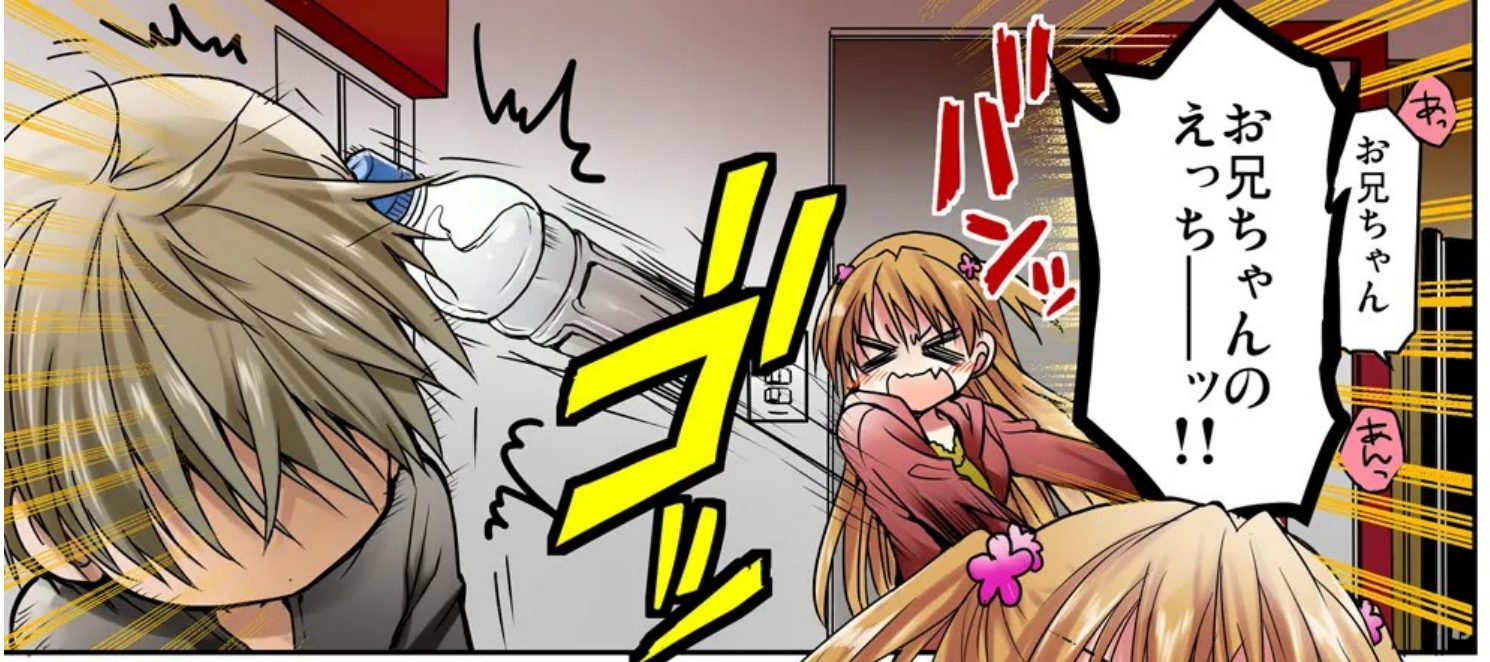
お兄ちゃん
好きっ大好きっ



……いいの？

俺たち
兄妹なんだぞ……？

関係ないよ……





.....うん

お兄ちゃんとは
暮らし始めたのは
わたしが4歳の時

お父さんの
再婚相手の
連れ子だった



わたしには
性格がまるで正反対の
お姉ちゃんがいんだけど
二人ともすぐに打ち解けた

お兄ちゃんが来てから
毎日がすごく楽しくて



ずっとずっと
そんな日が
続くんだと
信じて疑わなかった
幼いわたしに

3年後
突然両親に
離婚を告げられた



わがまま
言うな優!

やだあああああ
一緒にいじやんど
一緒に行ぐうう

わがままって...
大人の都合を
押し付けてるのは
こっちの方よ?

お前は
黙ってる!

何日でも激しく
泣き喚くわたしと
言うことを聞かせようと
暴力をふるう父に
見かねたお母さんが

わたしを引き取ると
申し出てくれて
戸籍に入れてくれた



本当なら
わたしはもう二度と
お兄ちゃんには
会うことすらなかった
はずだった



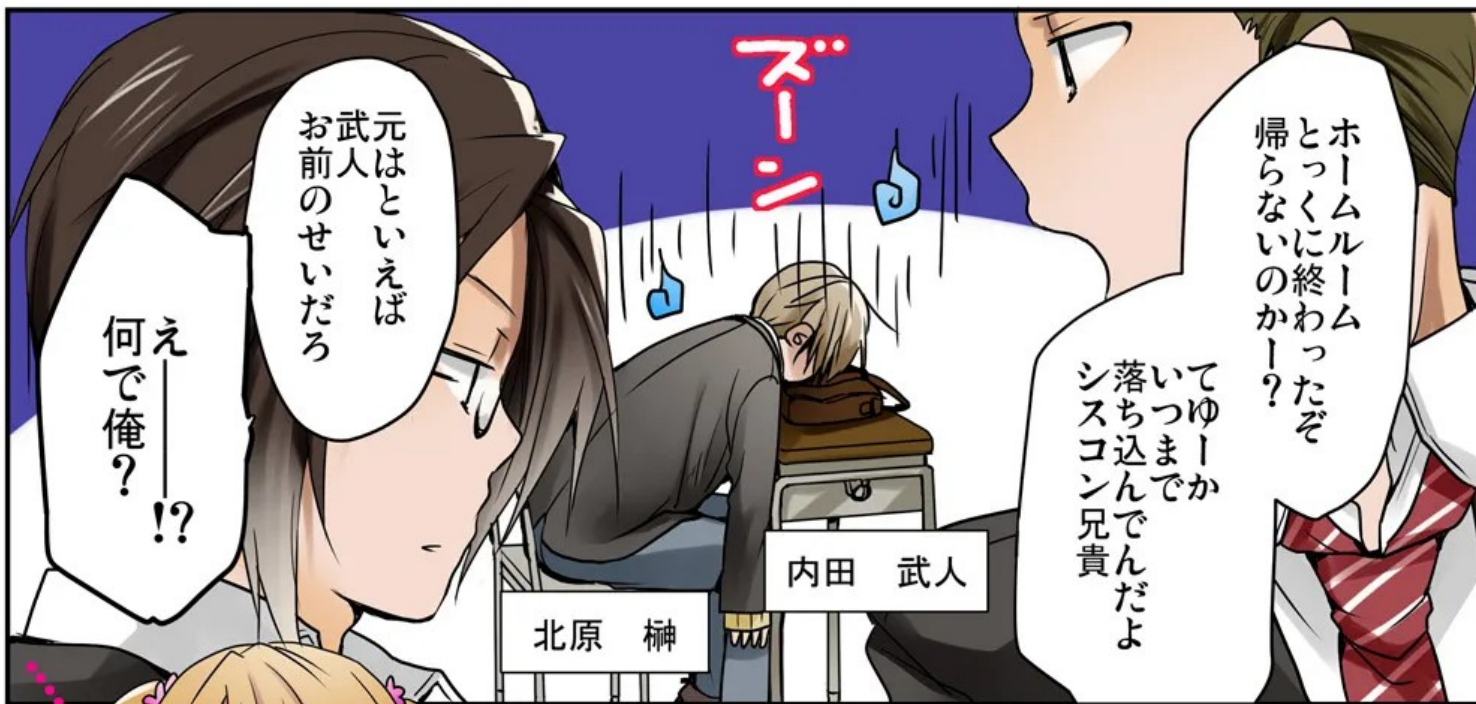
だから

お兄ちゃんとい
いられる時間は
一秒も無駄に
したくないっ!

放課後

おい

お涼
—
い



ホームルーム
とつくに終わったぞ
帰らないのかー?

てゆうーか
いつまで
落ち込んでんだよ
シスコン兄貴

内田 武人

北原 榊

元はといえ
武人
お前のせいだろ

え
—
!?
何で俺?



俺はただこの女優
優たそに
そつくりだぞって
D V D プレゼント
しただけだし

そんな善意を
朝一で踏みじられた
こっちの方が
落ち込みたいくらいだね!



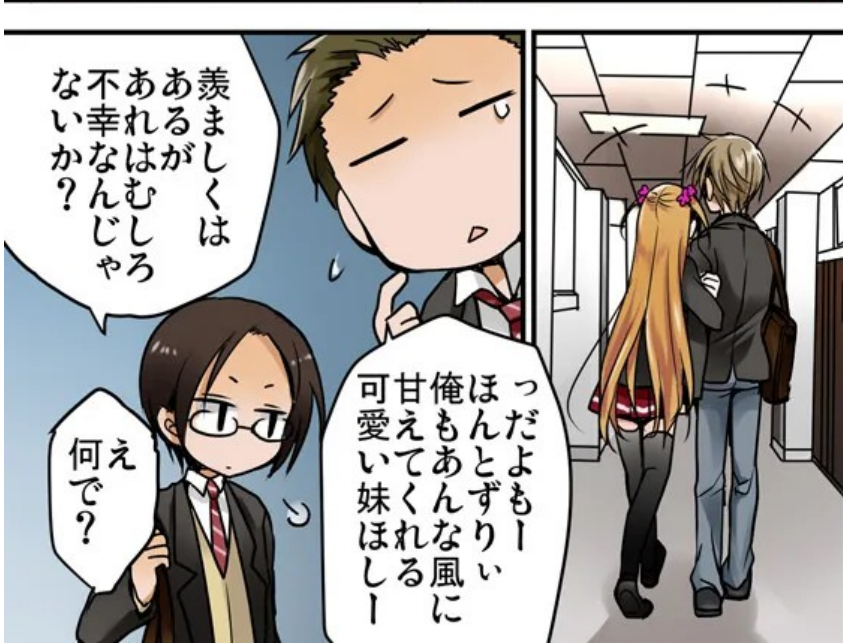
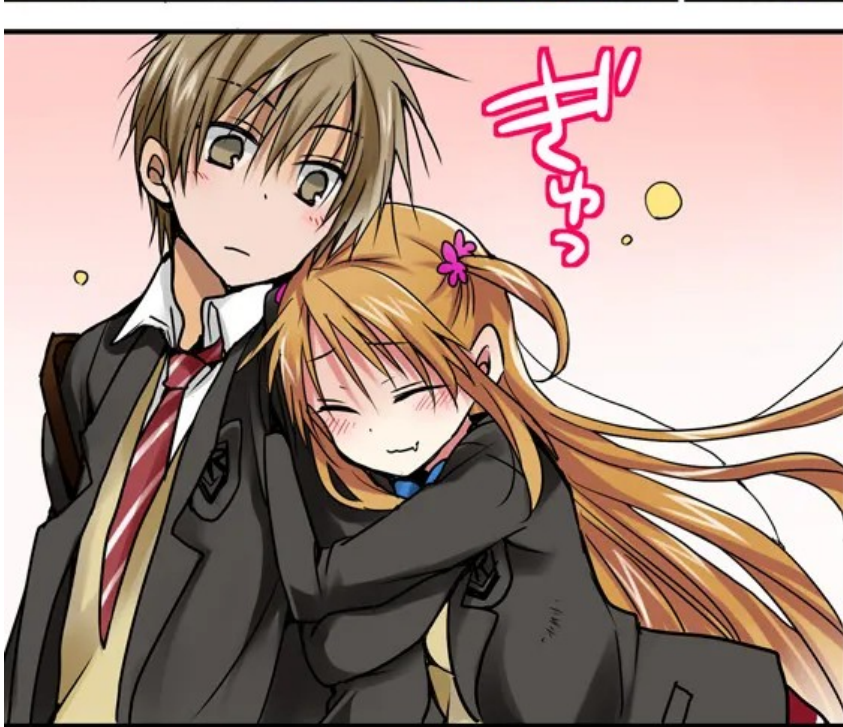
何が善意だ
ふざける
むしろ
渡す段階から
嫌がらせじゃ
ねーか!!

どこの世界に
A V 女優と妹が
似てて喜ぶ奴が
いやそもそも
似てな

お兄ちゃん!

ガラッ

ガッ

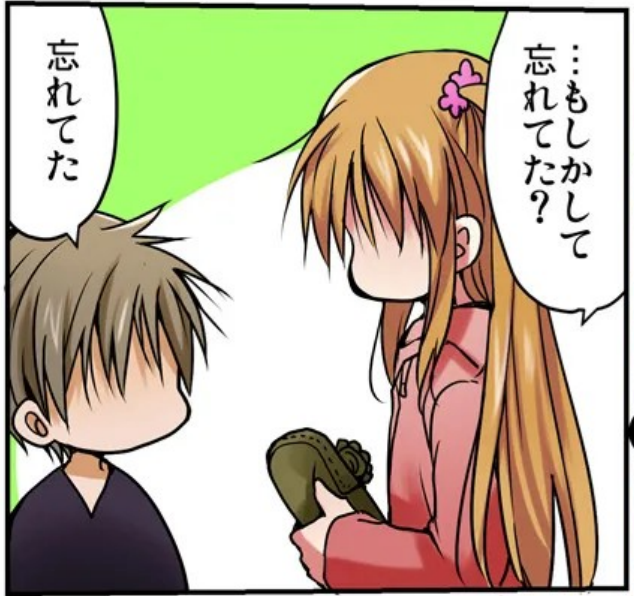




数週間後



妹じゃ
手出せないだろ



忘れてた

…もしかして
忘れてた？



お兄ちゃん！

お誕生日
おめでとう！



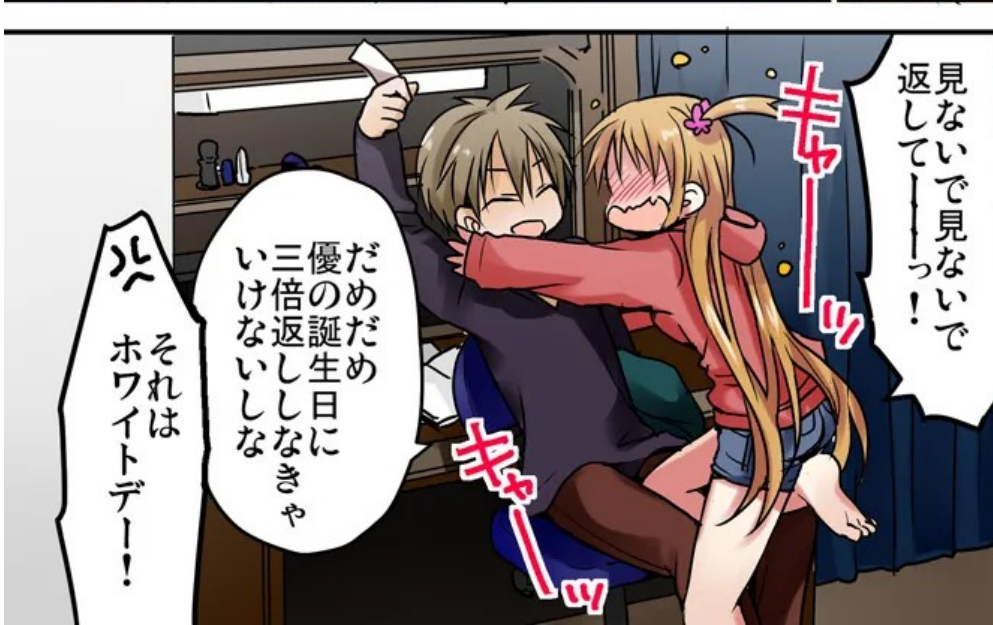
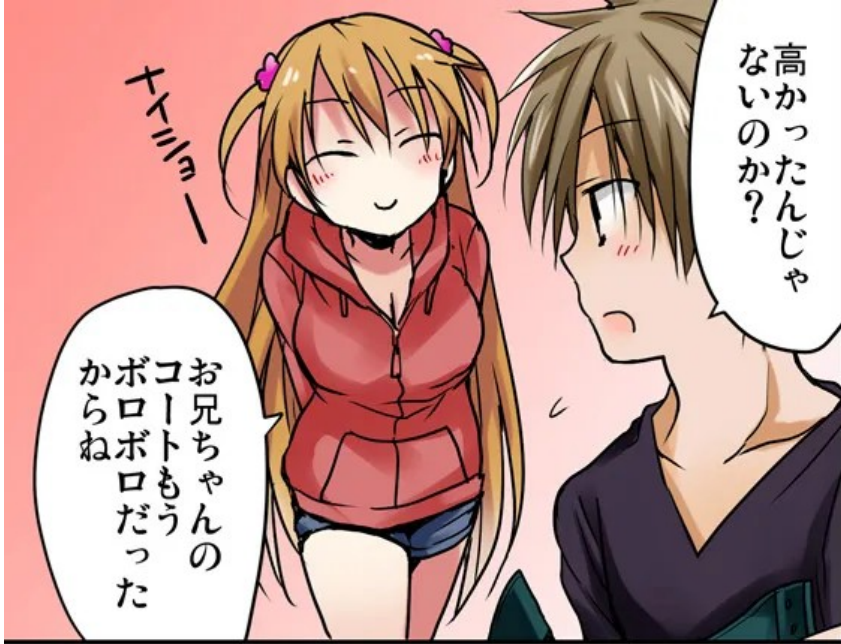
もうっ
晩御飯の後の
ケーキ何だと
思ってたの

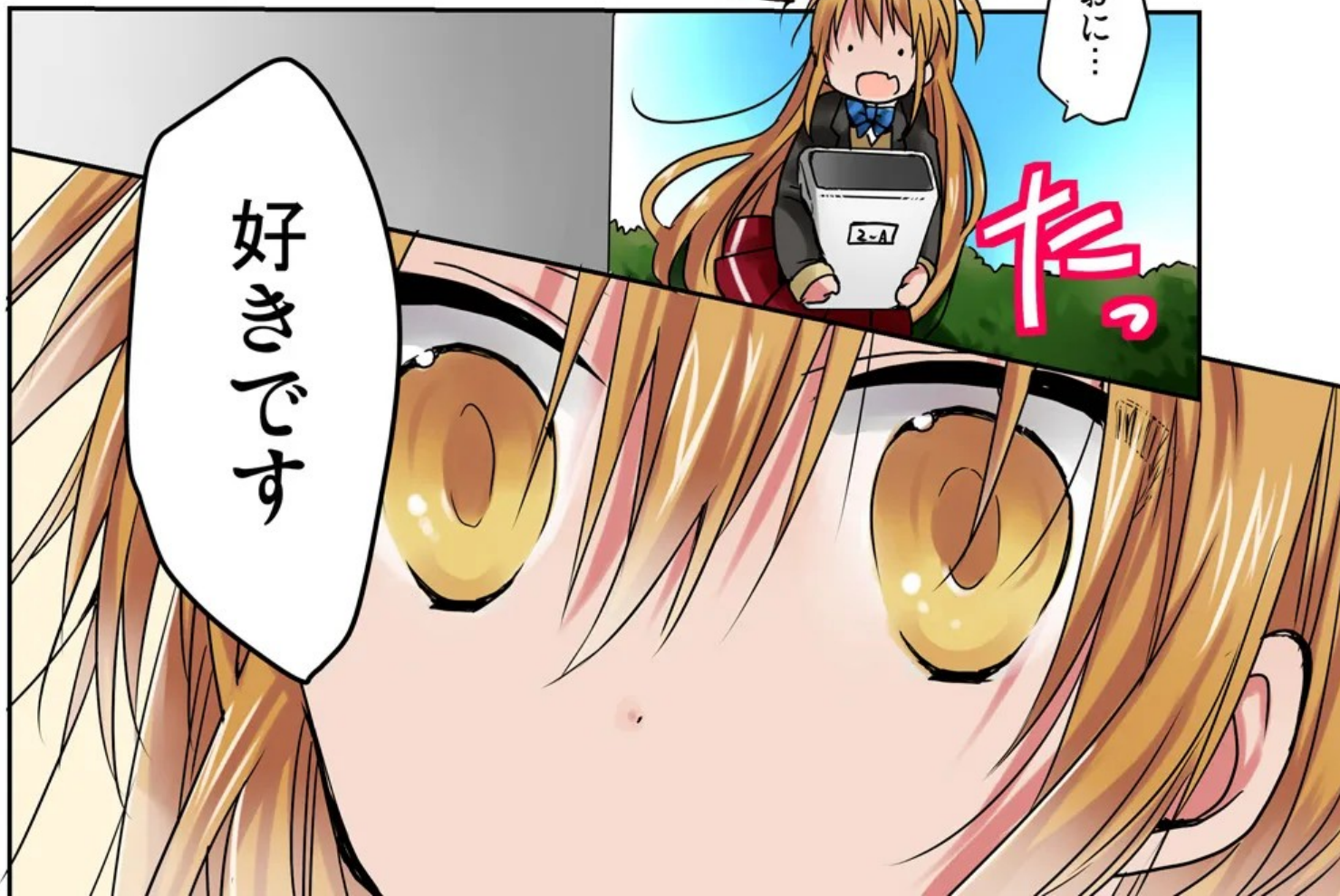
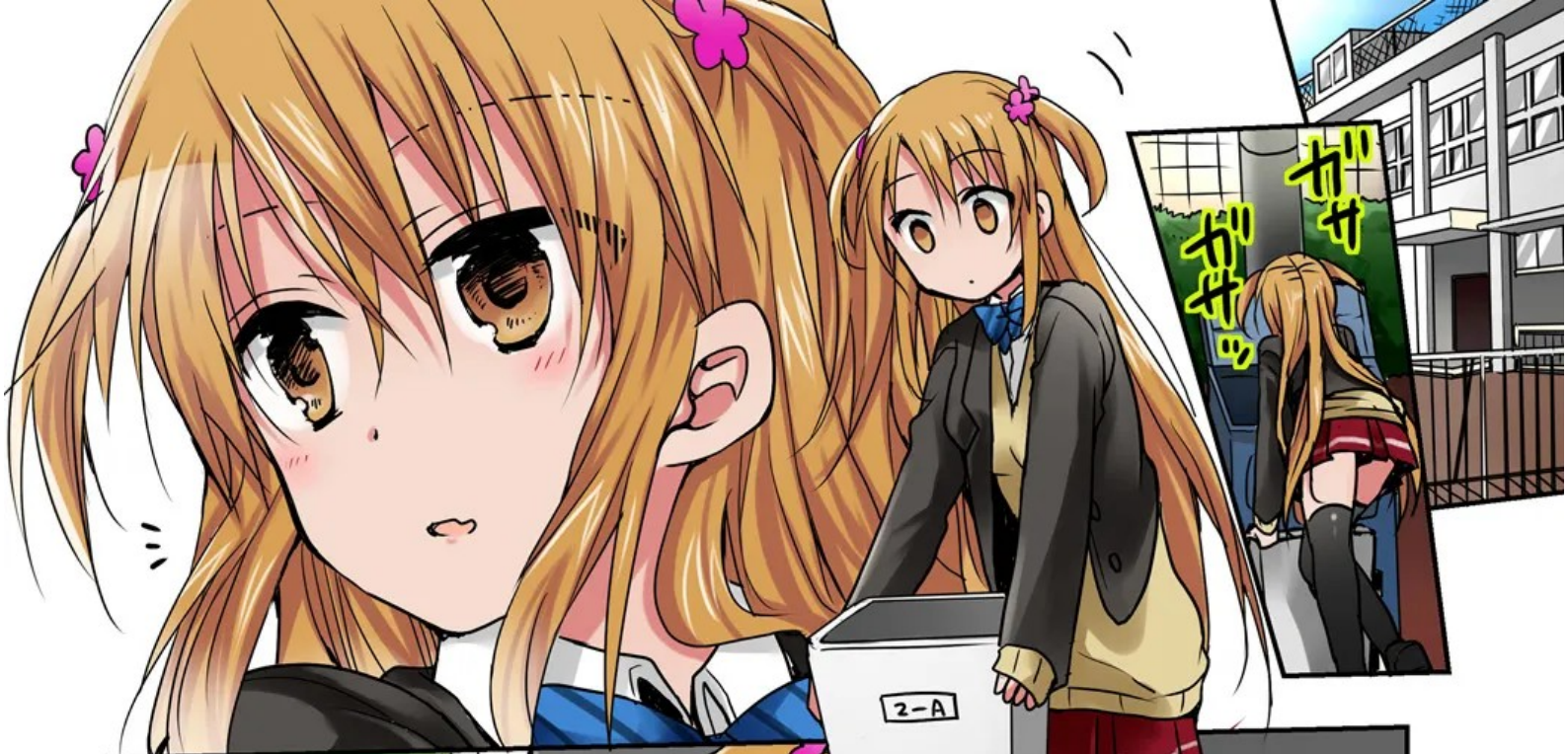
ねえねえ
開けてみてっ

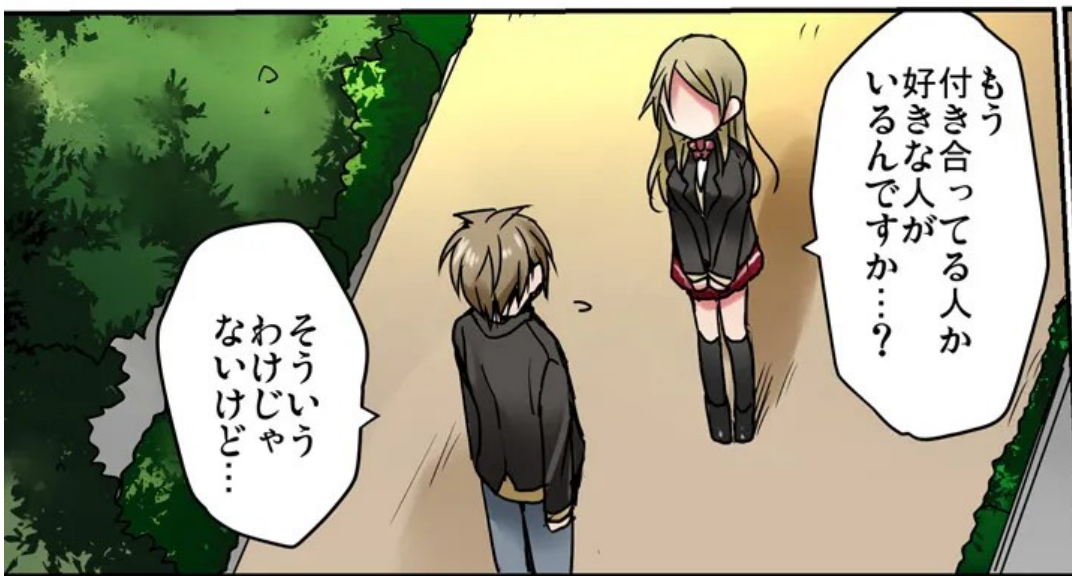
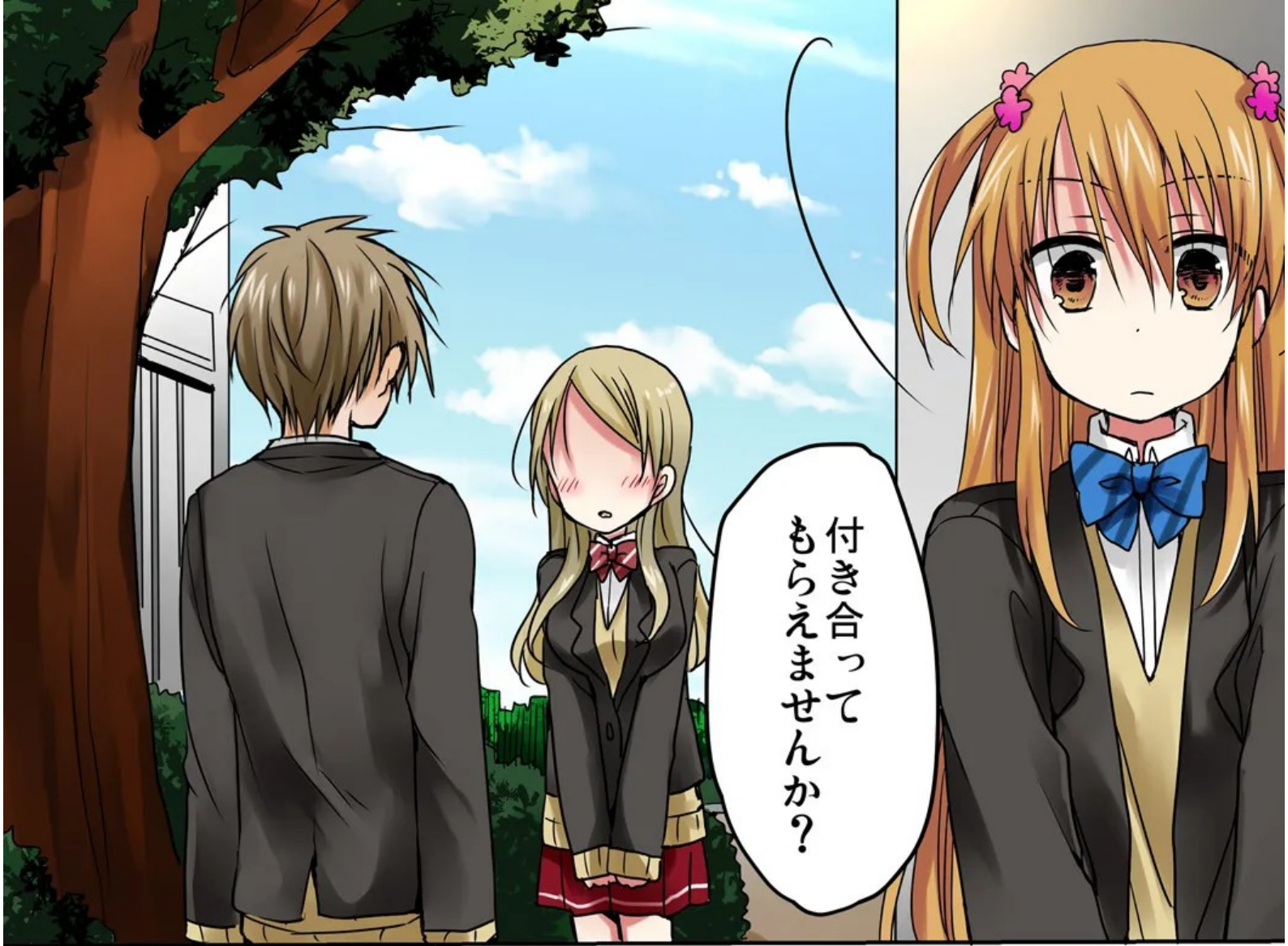
ががが
ががが

うん













…今日見ちゃった

え？



優 どうした？

宿題で分らないところあったか？



可愛くて優しそうなんだったじゃん

なんで振っちゃったの？



寂しいけど

わたしのせいでお兄ちゃんが我慢してるならやっぱ嫌だし

だから気にしないで



わたしのせいかな？

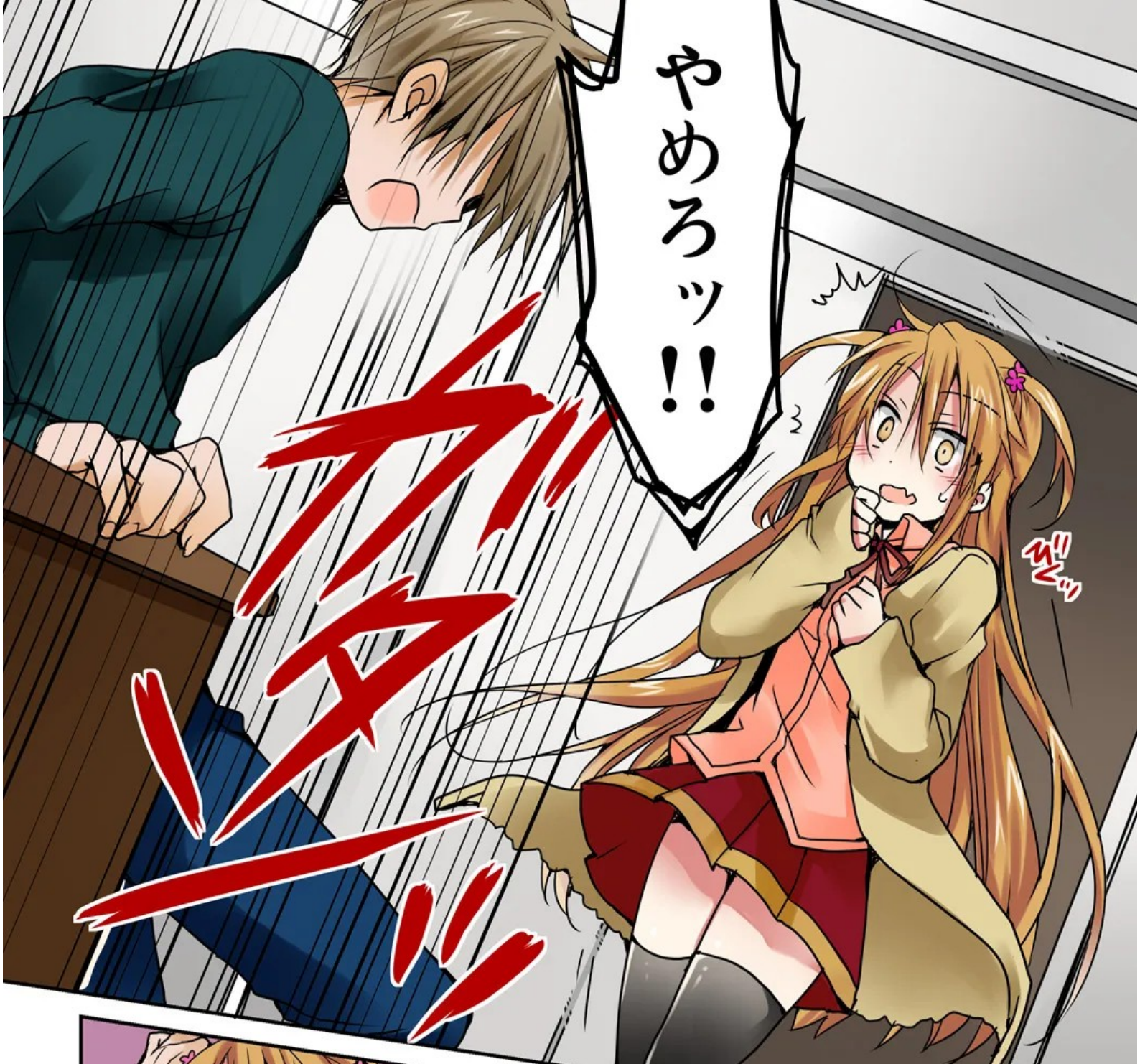
わたしがお兄ちゃんに甘えてばっかだから遠慮してるのかな

わ…わたしだってもう子供じゃ言わないからさちゃんとか分るよ？



お兄ちゃんのようにやりたいように





やめろッ!!

グッ



我慢して…

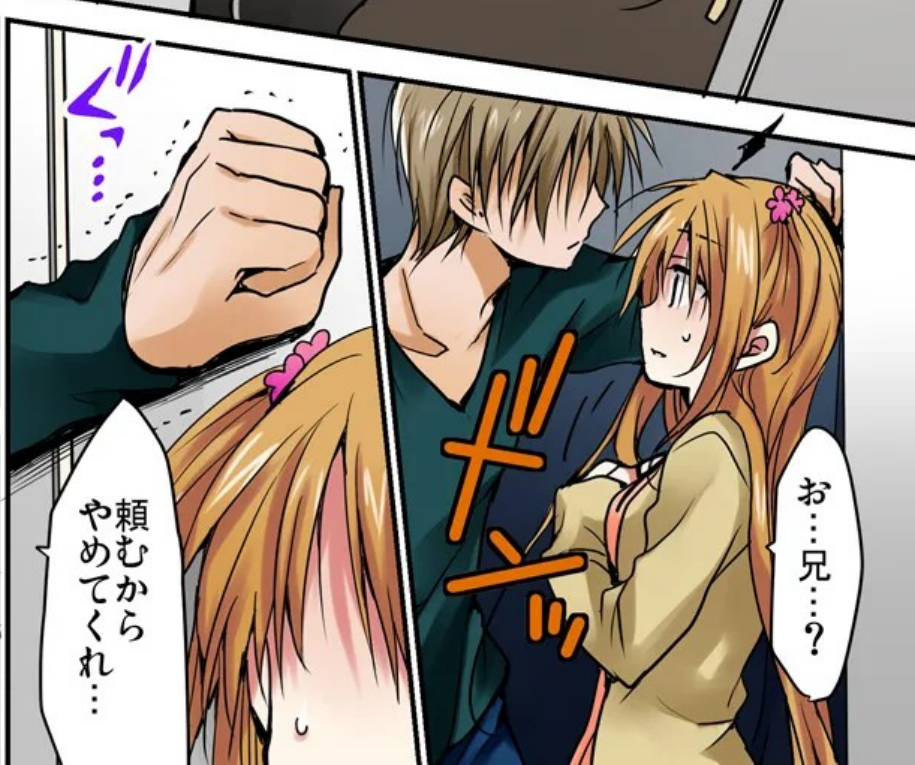
お前の理想の兄であらうと…

何のために…俺は今まで…



どういう意味…?

えっと…お兄ちゃん…



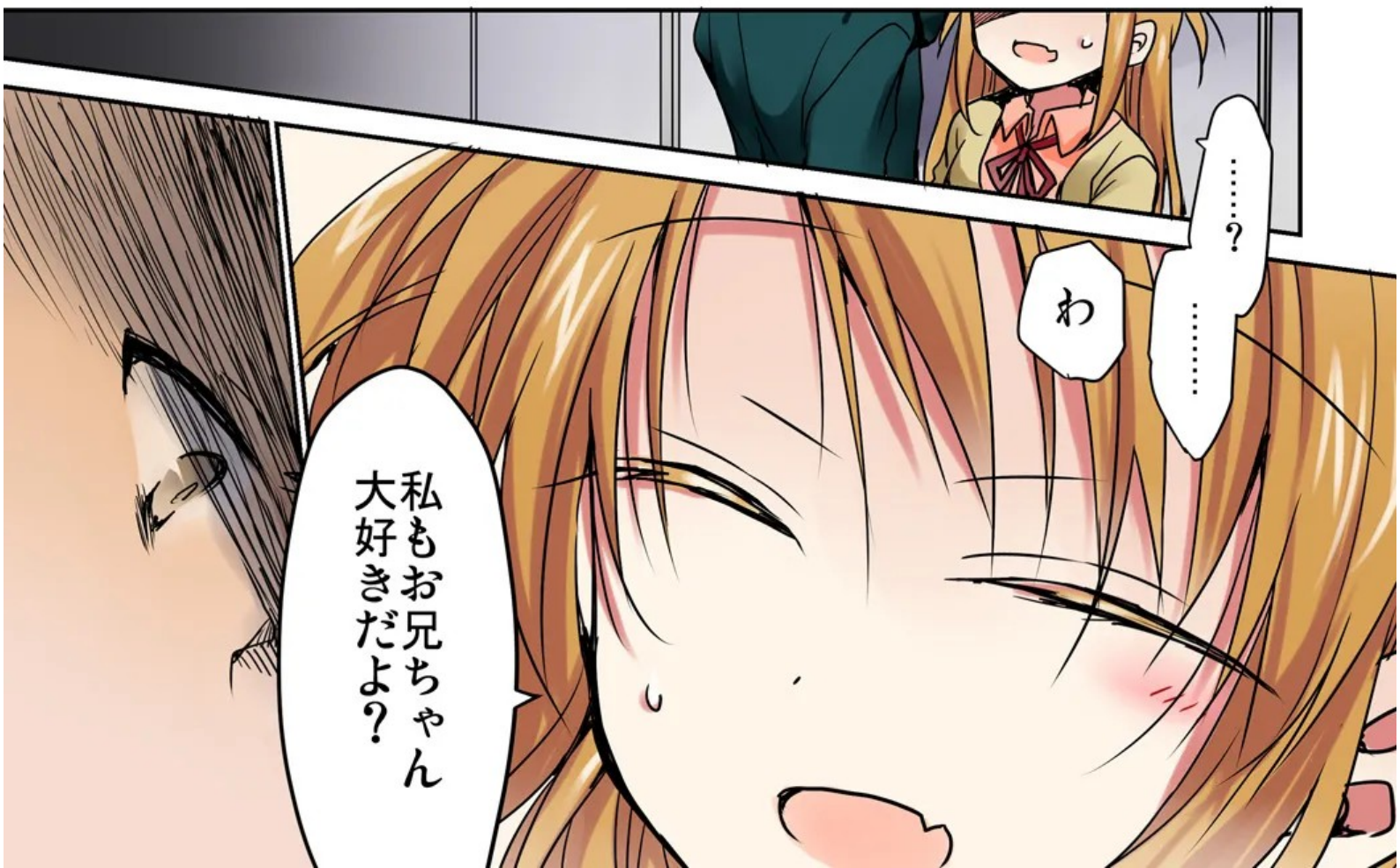
お…兄…?

頼むからやめてくれ…



小さい頃から
ずっとお前だけが
好きだった

俺が好きなのは
優……お前だよ



私もお兄ちゃん
大好きだよ？

わ

……？



え...っ

きん



おに... ひやっ!?

ぎん

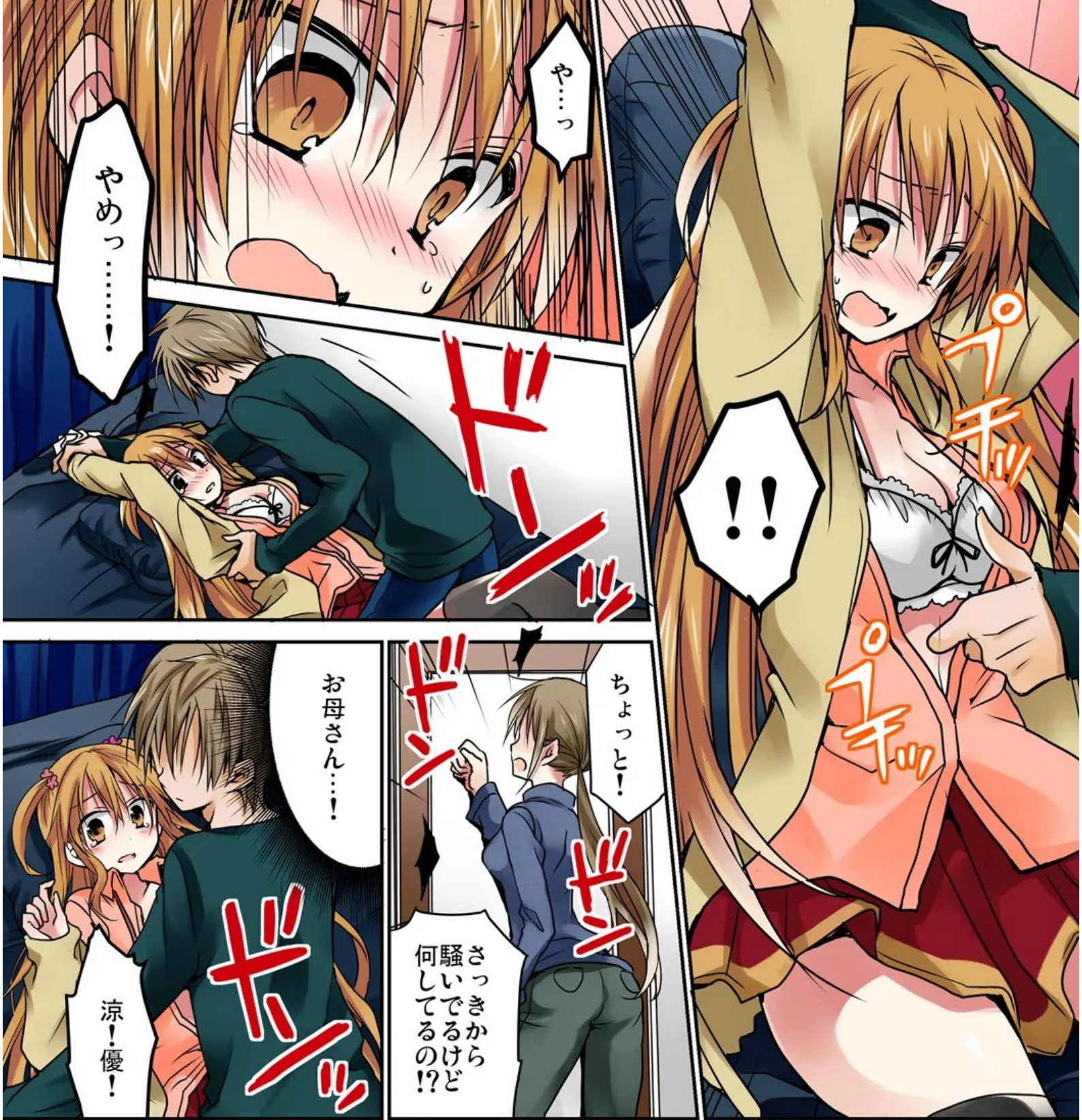
ぎん

えっ...なに...

お兄ちゃん... やっ 待っ

なん...で お兄ちゃん どうしたの ね...

てんてん



こんなところ見られたら...

きつともうお兄ちゃんとは暮らせなくちゃう...!!

お兄ちゃんに悪戯したら怒られたからなっただけ!

涼! 優! 聞いているの!?

聞いてるっ! 何でもない!!

涼 そうなの?

きゅん... きゅん...

...仲良くしなさいよ

...ごめん

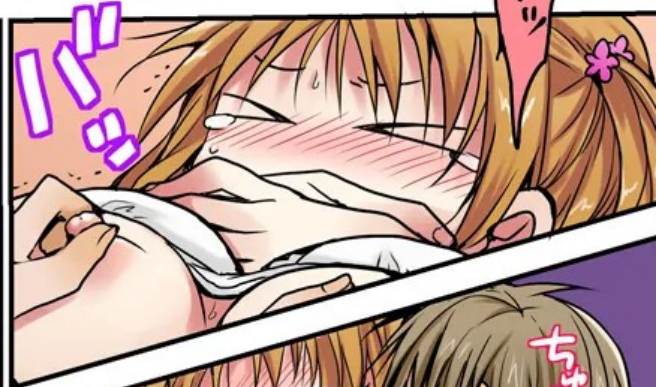
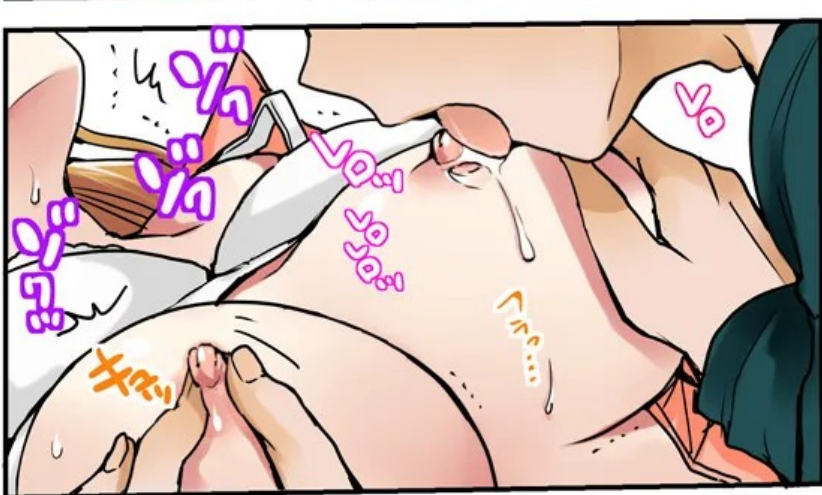
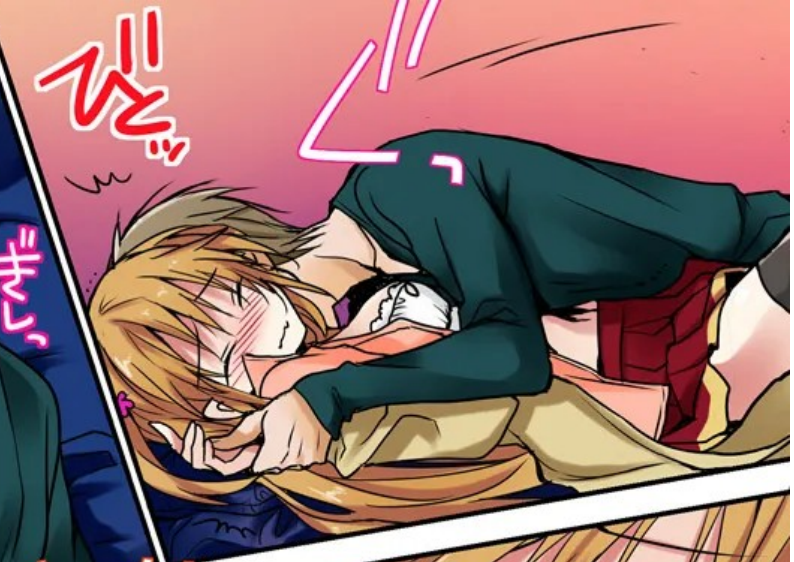
ちょっとおとなげない怒り方した

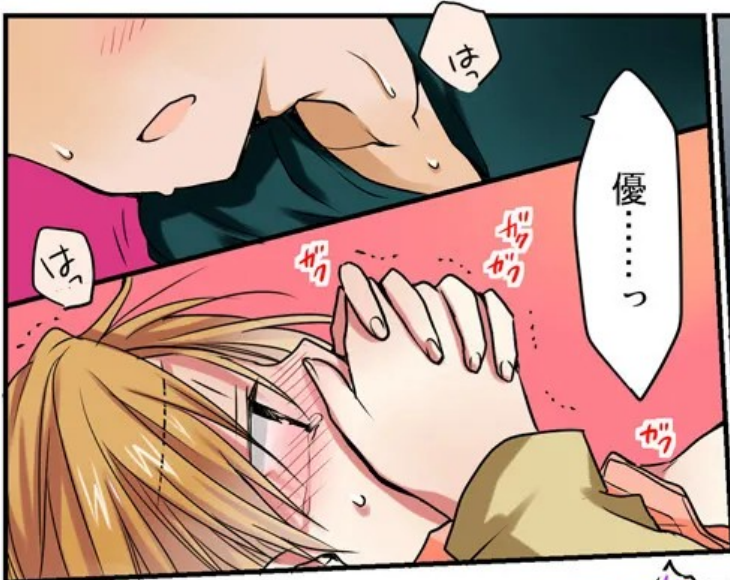
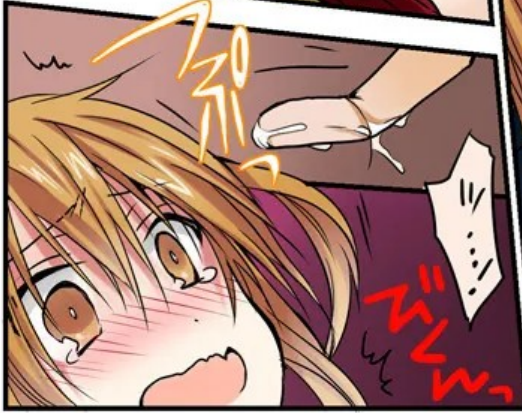
もう仲直りするから大丈夫

... 何で母さんに助けを求めなかったの?

じよ... 冗談だよお兄ちゃん... だよ... ね... だけだよ?

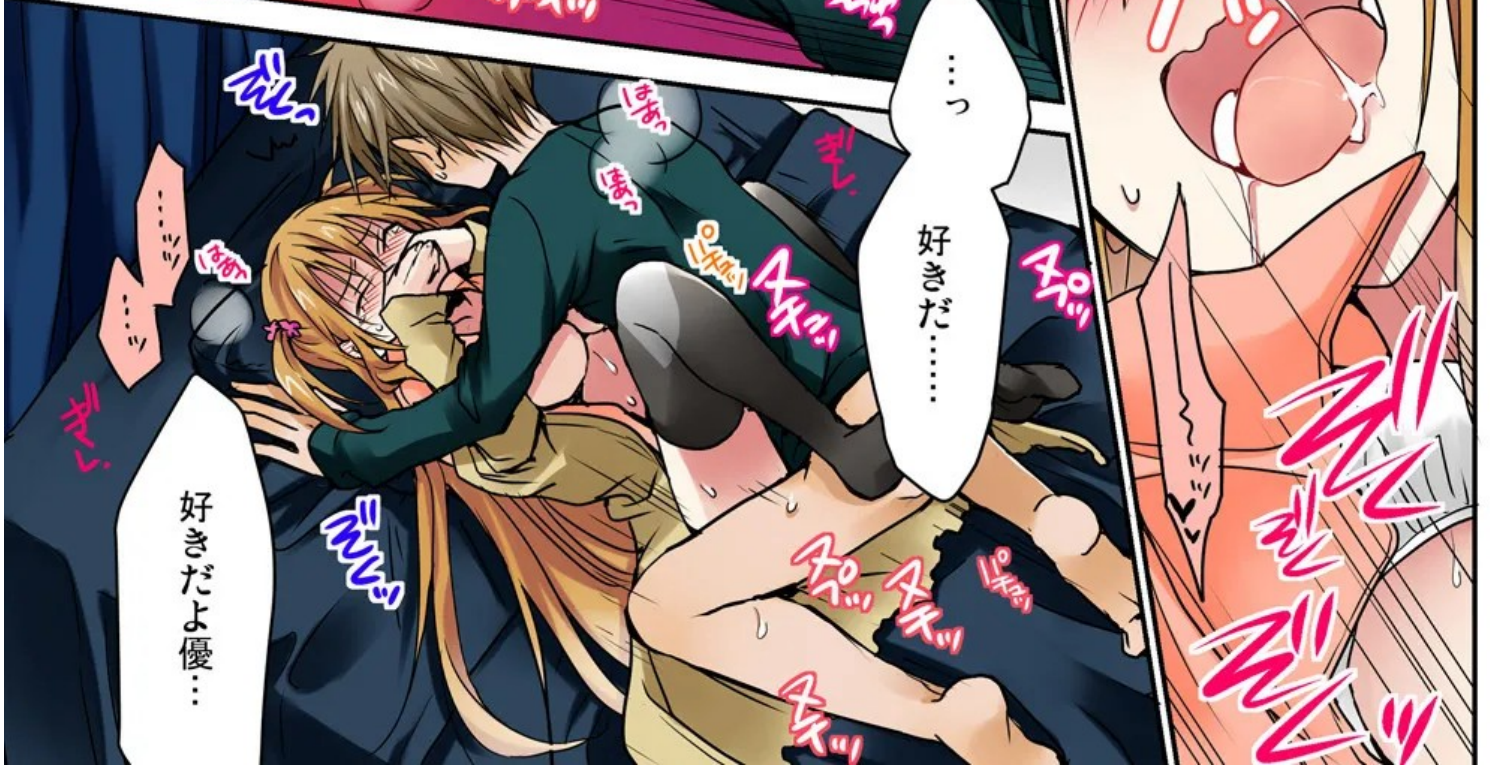








お前の思う
お兄ちゃんじゃ
なくてごめんな



...っ
好きだ...

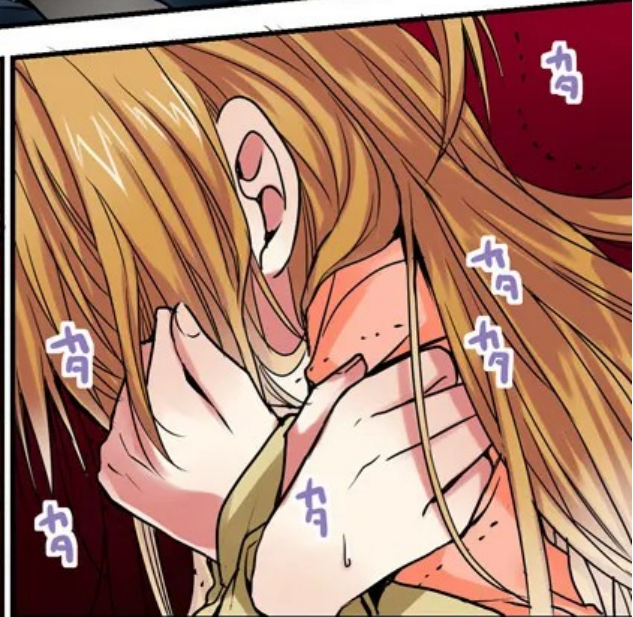
好きだよ優...



優……

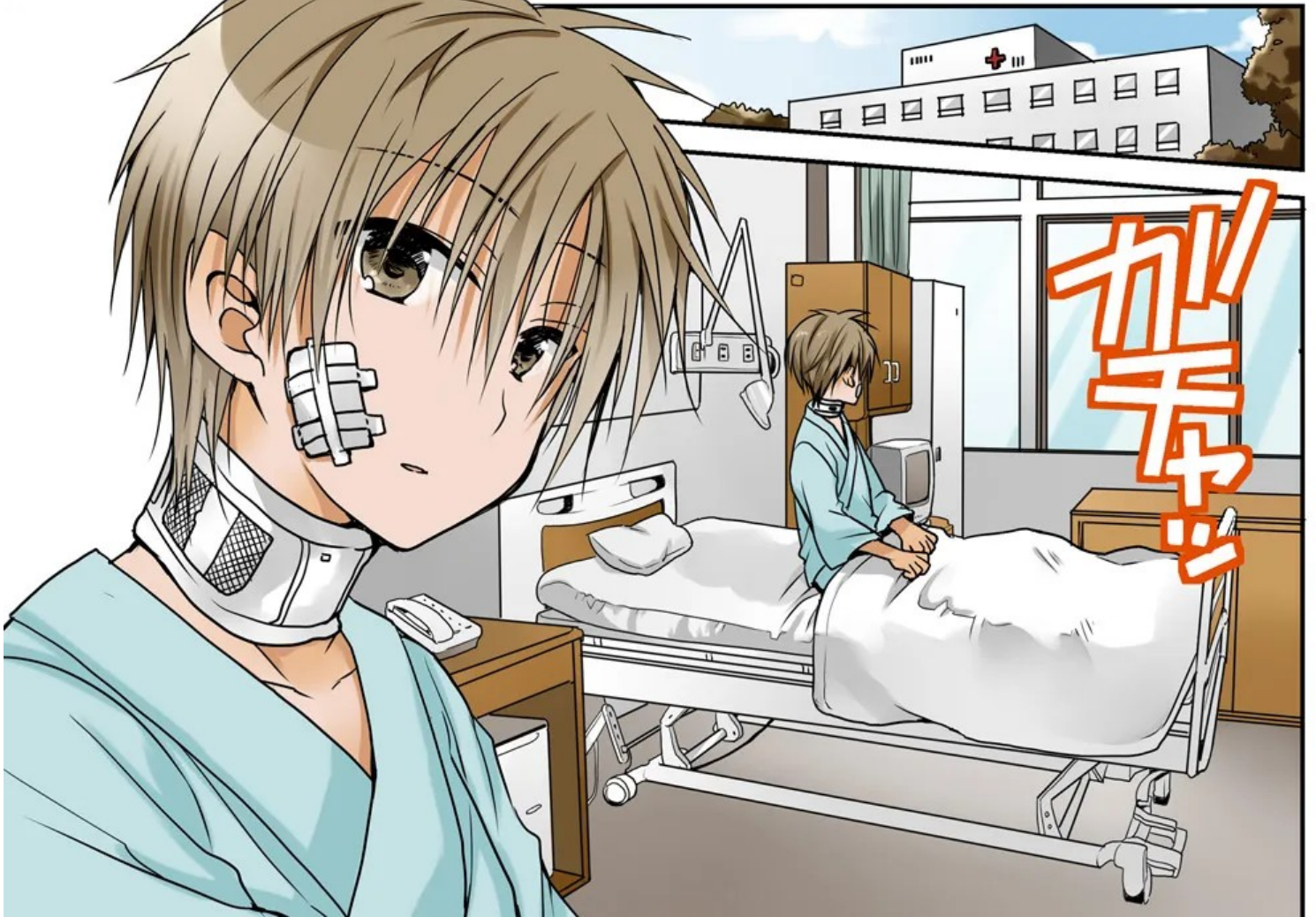


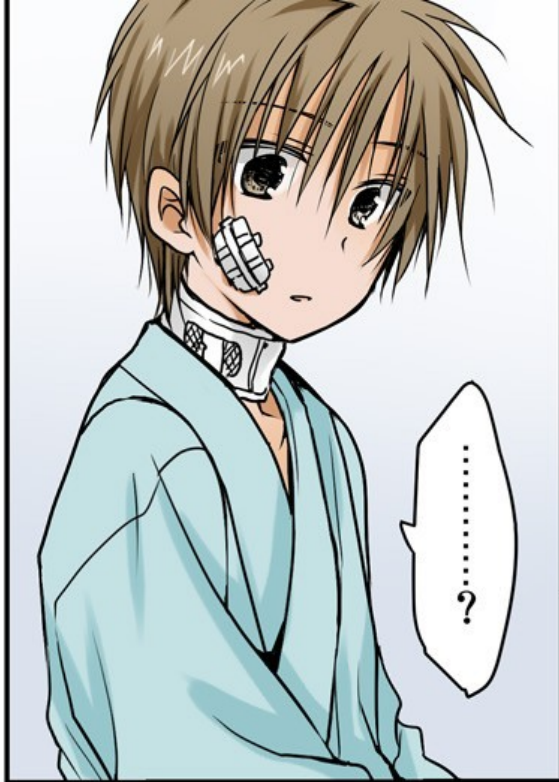
……ごめんな



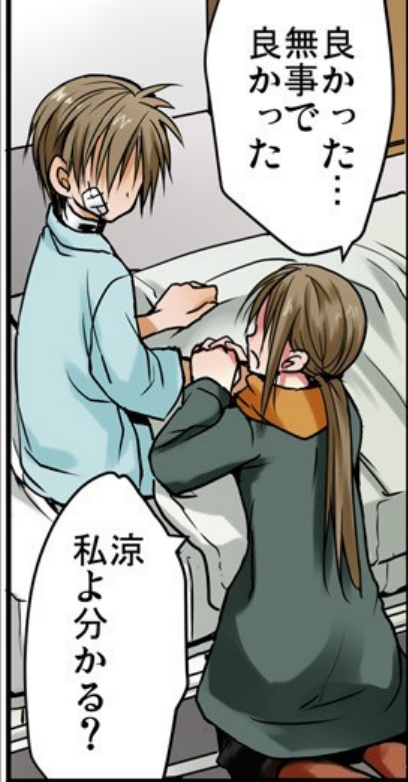


それから
何日たつても
お兄ちゃんは
帰ってこなかった





.....?
.....?

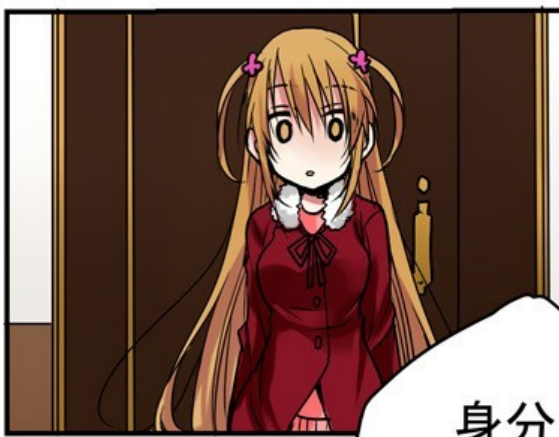


良かった...
無事だった
良かった

涼
よ分かる?



涼!!



.....
すみません

分らないです
身内の方ですか...?



お兄ちゃん
は記憶喪失に
なっていた

あの夜、妹をハメた 感触だけは覚えてる。

第1話

ひびき滯

©ミリオン出版

※本書の一部あるいは全部を無断で複写転載することは法律で禁じられています。

ひびき
き
澁

あの夜、
妹をハメた
感触だけは
覚えてる。

第2話



先生
ありがとうございました

本当に
ありがとうございます
ございます
ほら涼も！

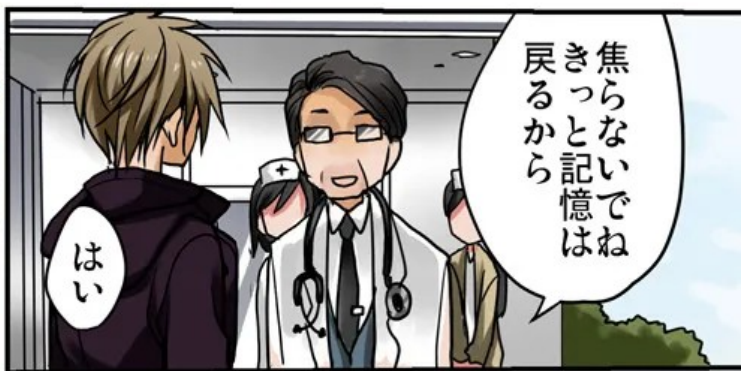
脳自体に
損傷はありませんが
気を付けて
見てあげて下さいね



本当に
お世話に
なりました

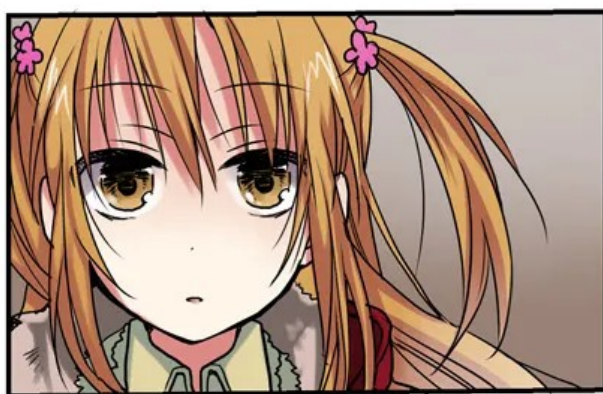


じゃあ
帰るわよ
ほら優も



焦らないでね
きつと記憶は
戻るから

はい

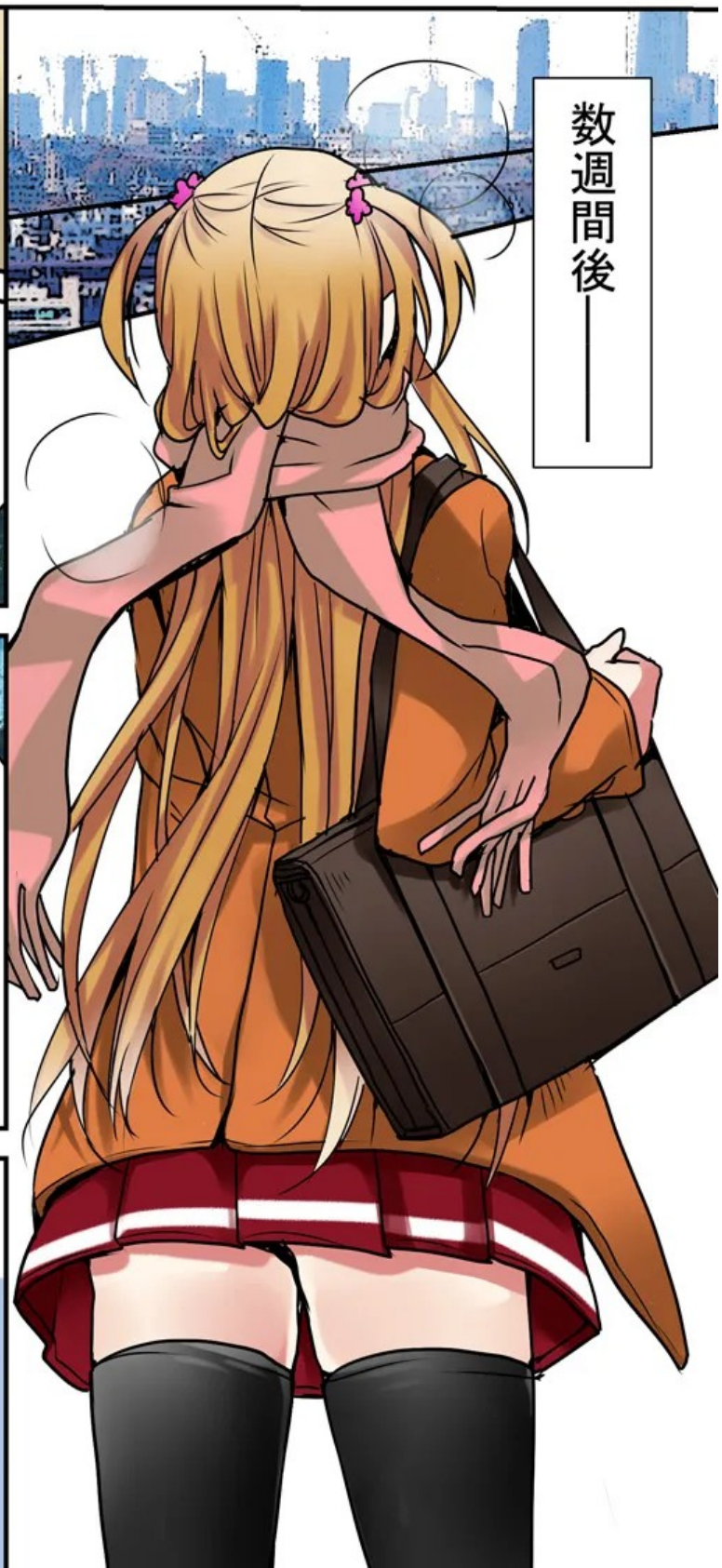


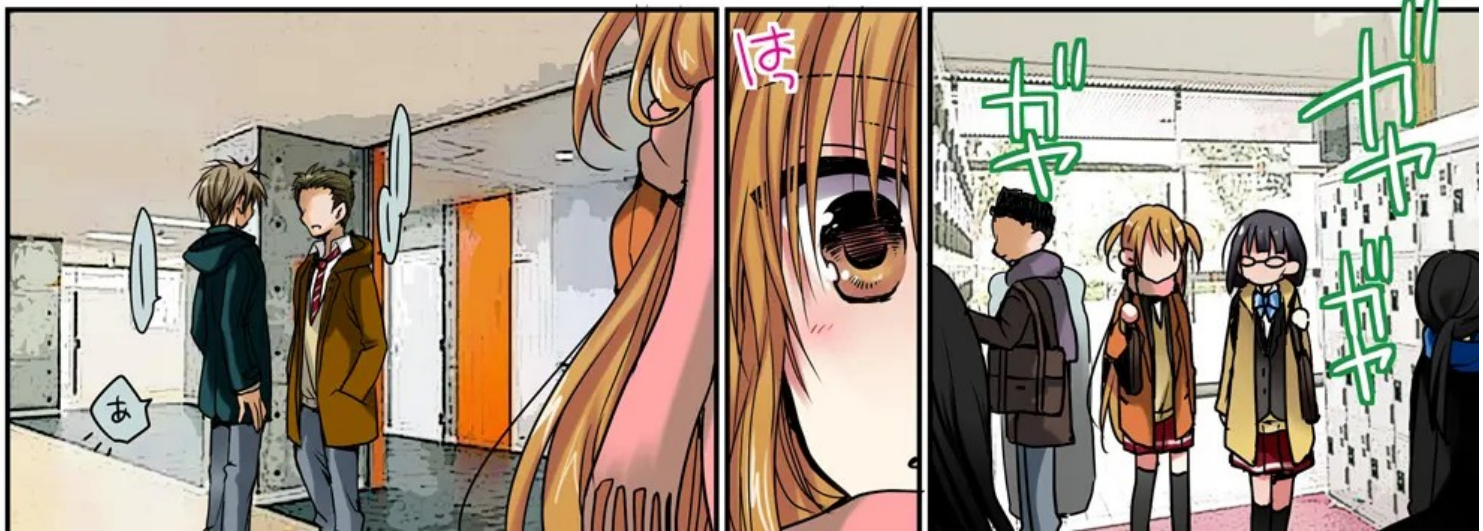
……うん



帰ろう

……えっと……
……優





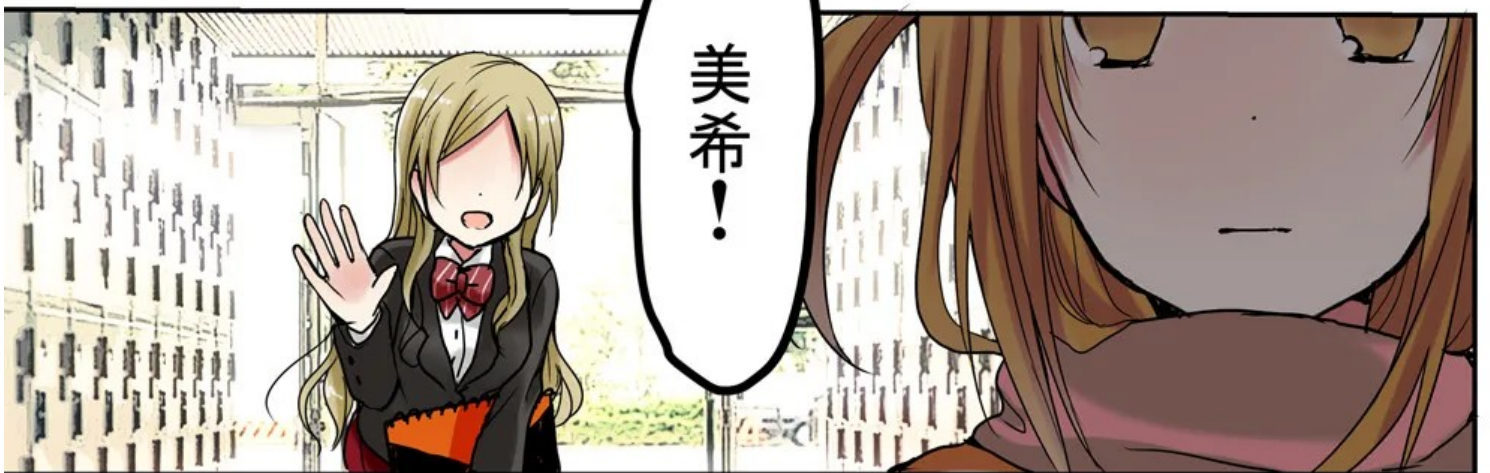


ぽん



ん?

涼っ涼っ
ほら後ろ



美希!





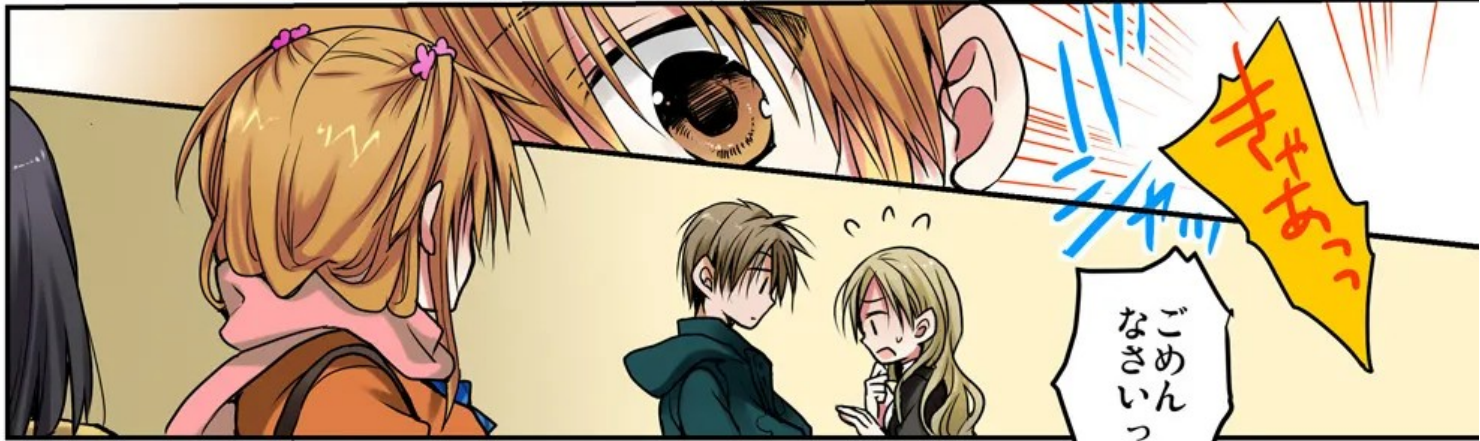
どうでも
いいけど
寒いし
早く行こ

えええーっ!?



あの二人最近
つきあい
始めたんだよ
登下校も
二人でしてる

えっ...
えっ!?

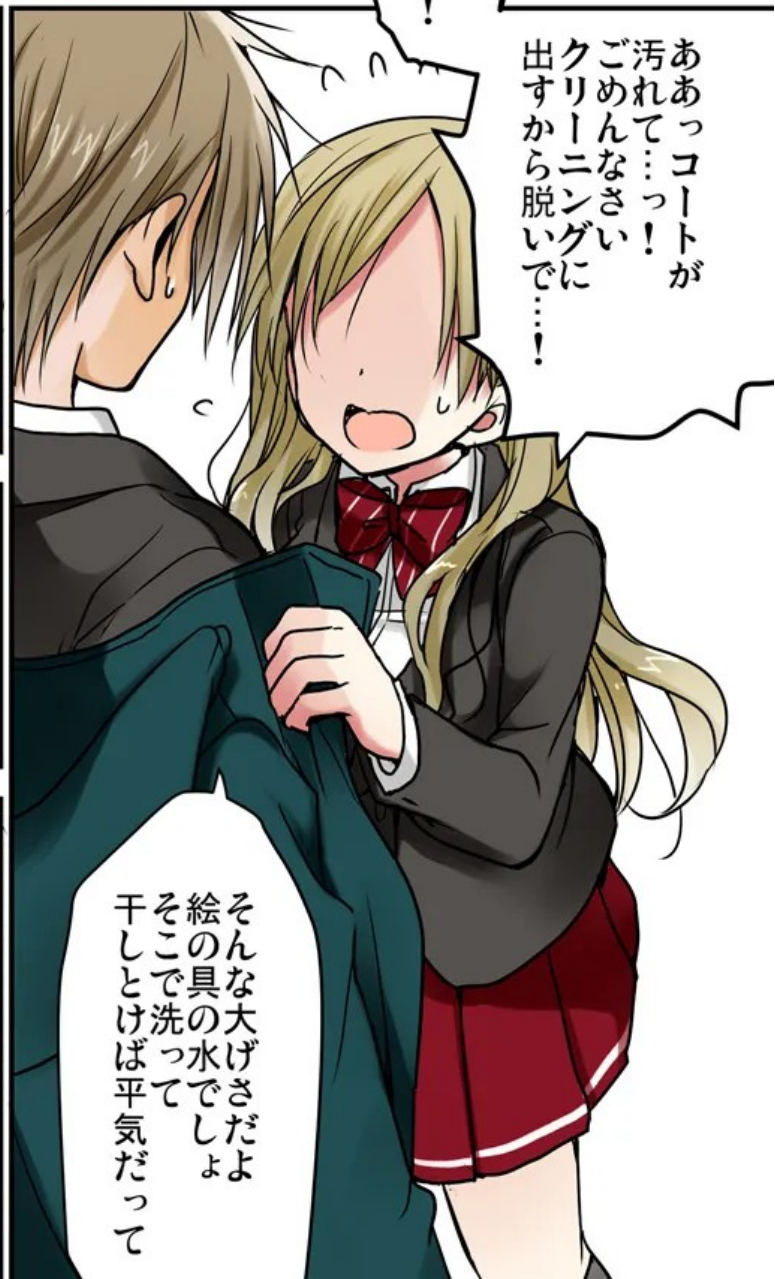


ごめん
なさいっ!



ん!...値段は
知らないけど
ほんと
大丈夫だから...

でも...でも
こんな
高そうな
コート...!



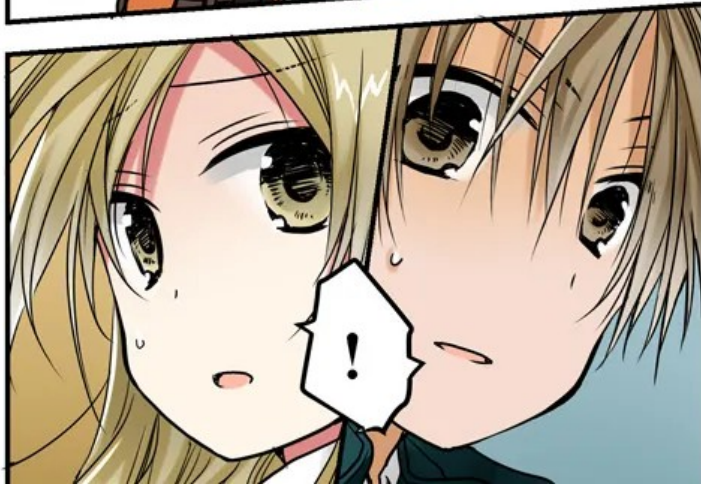
ああっコートが
汚れて...!
ごめんなさい!
クリーニングに
出すから脱いで...!

そんな大げさだよ
絵の具の水でしょ
そこで洗って
干しとけば平気だって

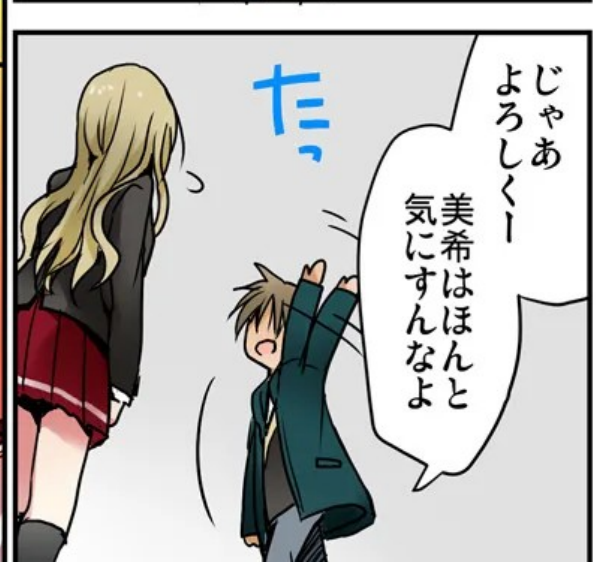
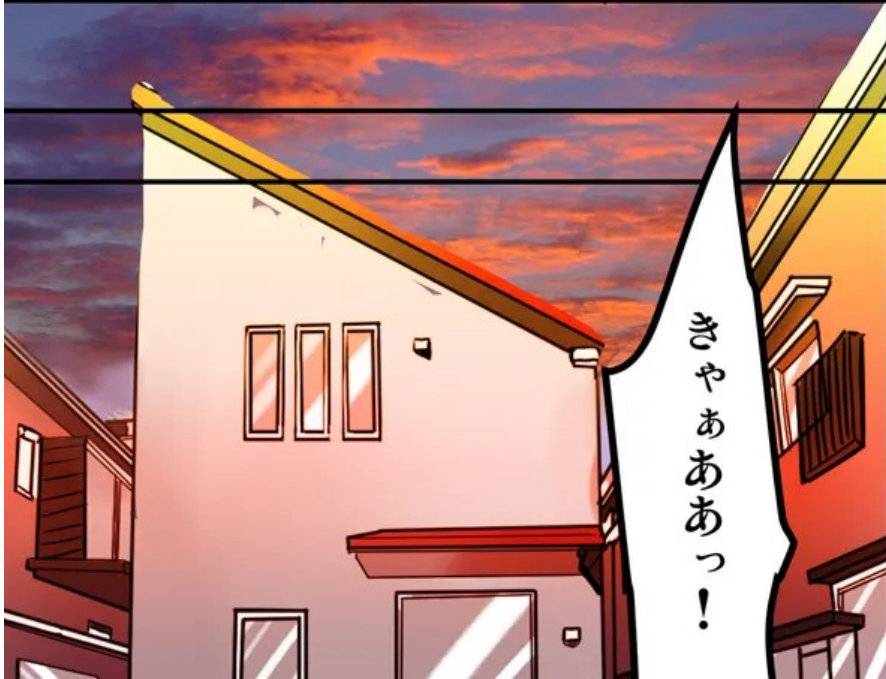
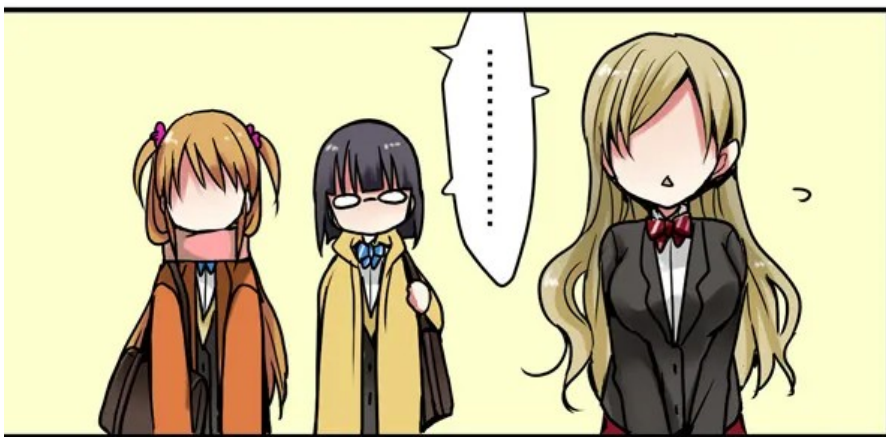


それ...優が
誕生日に
あげたコート...

香菜っ!!



!





母さん忙しそうだし
晩ごはん作ろうかと...

.....いや

はっ



や...
いやだから
私

ごめんなさい

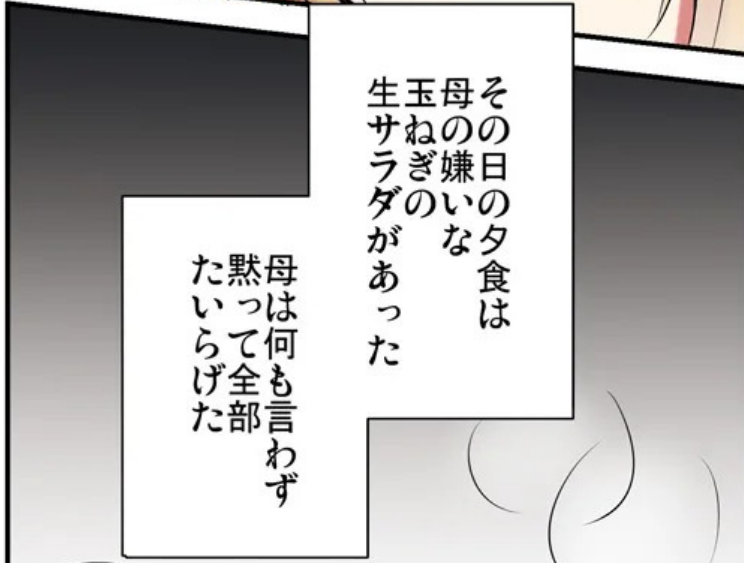


何...
してるの...?

なっ.....



「俺は」
大丈夫だよ
自殺なんて
考えて
ないから



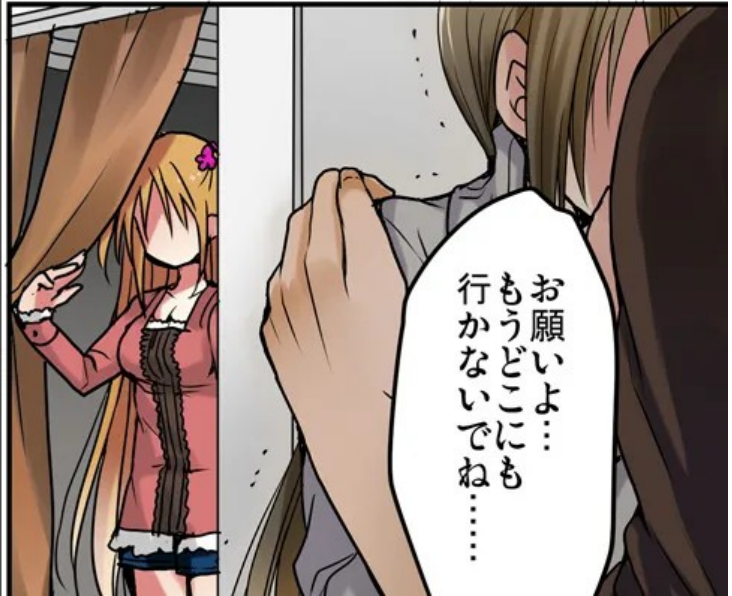
その日の夕食は
母の嫌いな
玉ねぎの
生サラダがあった

母は何も言わず
黙って全部
たいらげた



絶対母さんを
悲しませるような
ことはしないよ
だから安心して？

そう...
そうよね
ごめんなさい



お願いよ...
もうどこにも
行かないでね.....



……
何か用？



はい

……あつ
ごめん
勉強してた？

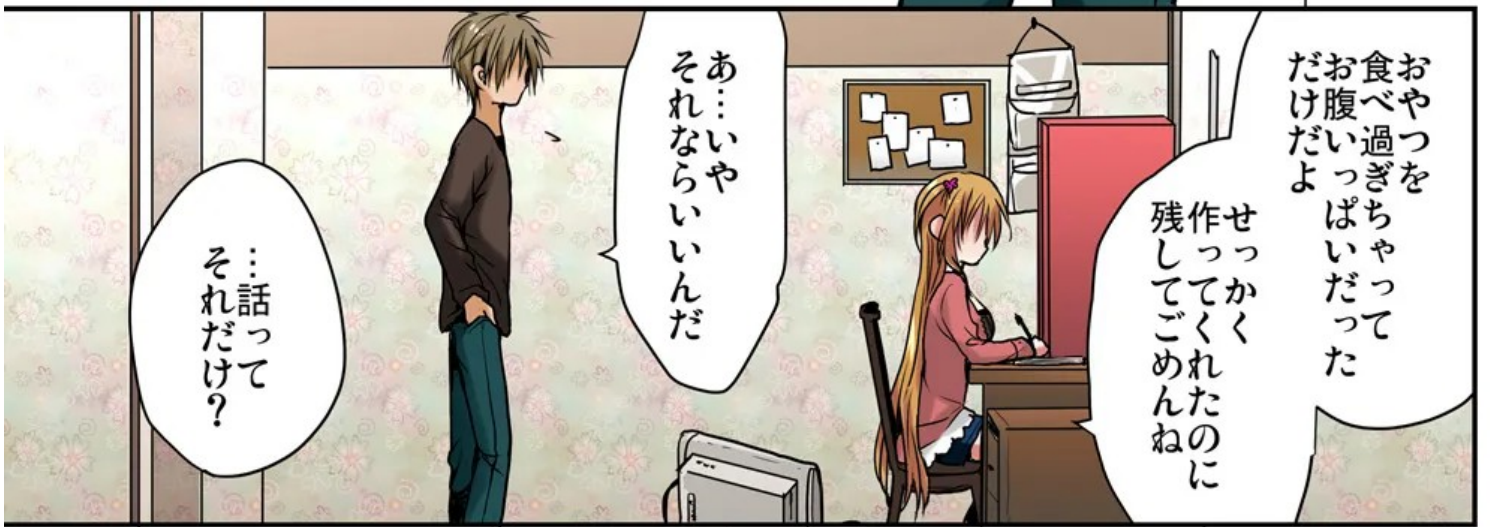
別に平気だよ
もうほとんど
終わってるし

今日の夕食

だいたい
残してたけど
体調悪い？

それとも
嫌いなもの
あったのかな

ガキガキ



おやつを
食べ過ぎちゃって
お腹いっぱいだった
だけだよ

せっかく
作ってくれたのに
残してごめんね

あ……いや
それならいいんだ

……話
それだけ？



……みんなが
言うんだ

妹との関係が
前と全然違うって
今の俺に戸惑ってるんじゃないのか話しあえて

そうは言っても
俺には前のことなんて
分らないし
普通にしてる
つもりなんだけど
優はどうか
思ってるのかなって……

？

いや……

えっと
……ん……

お兄ちゃん

お兄ちゃん

お兄ちゃん

舌を絡めて
息が出来ないほど
必死に私を求めて

髪を撫でて

抱きしめて

キスをして

全身が
痺れるような
あの感覚を
もっともっと
教えて欲しいの

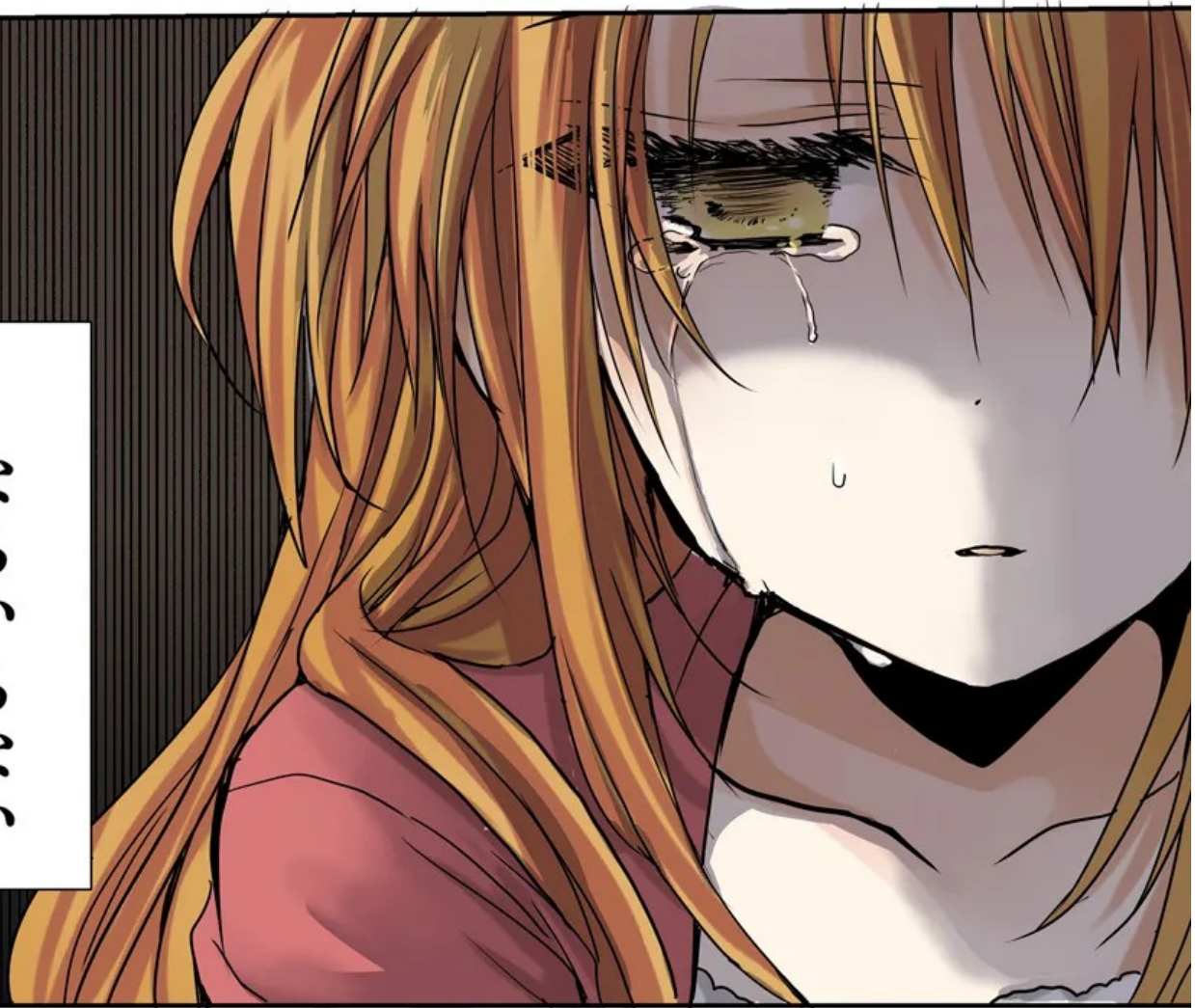
寂しいよ

せつないよ

あの日の熱が
今も冷めないの
体がお兄ちゃんの
求めて疼いてる

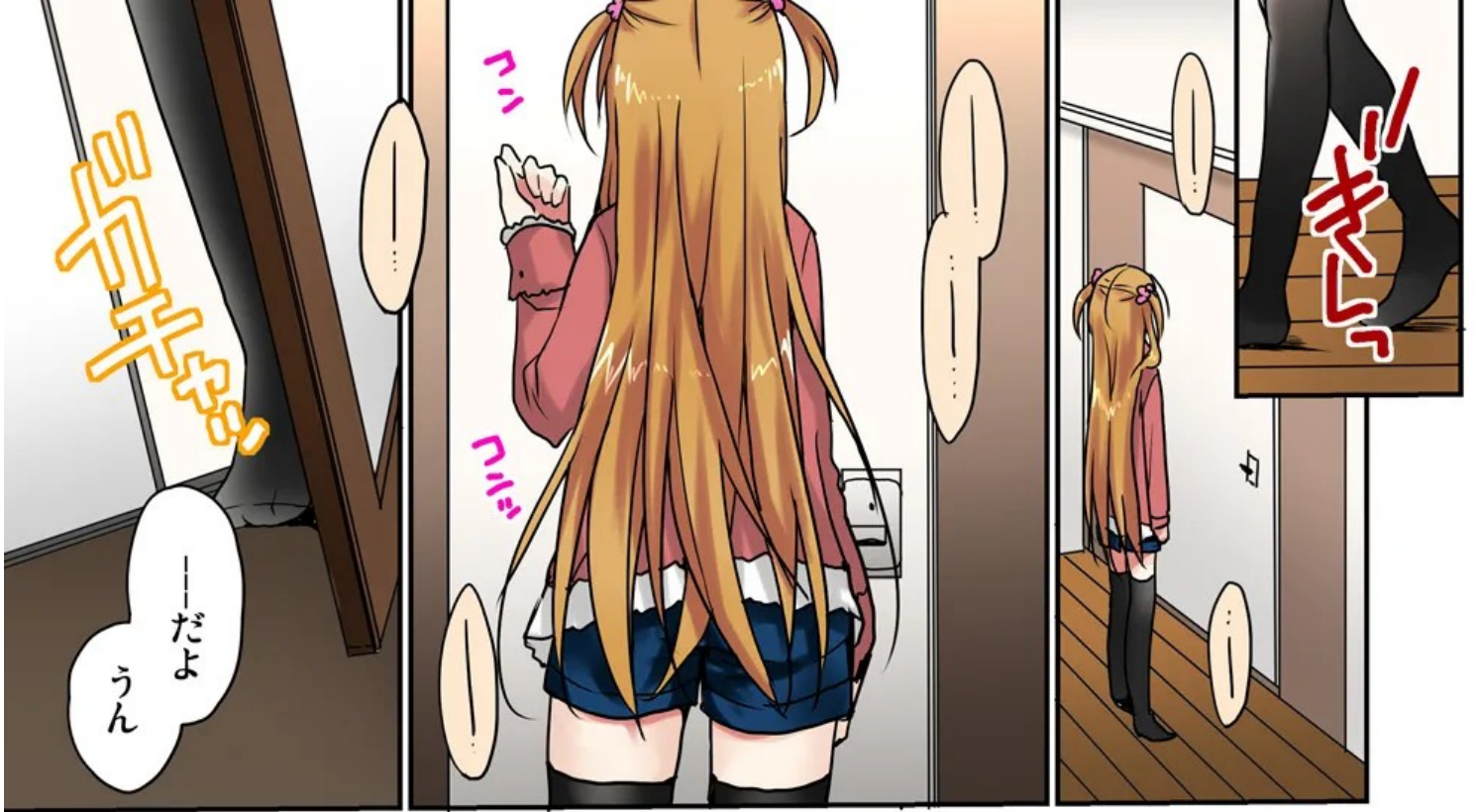


ねえ
これが「普通」なの？
こんなにも
痛くて苦しいのが
千切れそうな心を
抱えて生きることが
「普通の兄妹」なの？



…ならいらぬ

わたしは普通じゃなくていい



だよ
うん

フム
フム

ギョッ



だから心配しなくて
いいよ
お金？
いらん
いい

うん
うん

全然
しみと
残ら
ない
って



ポーン

ちょ

えっ...？

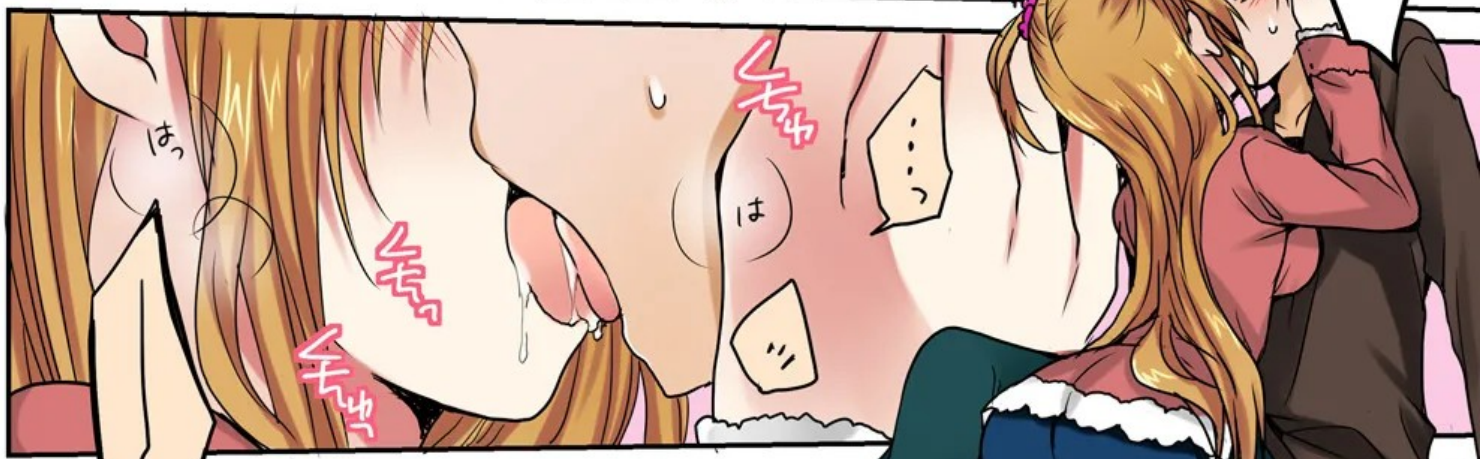
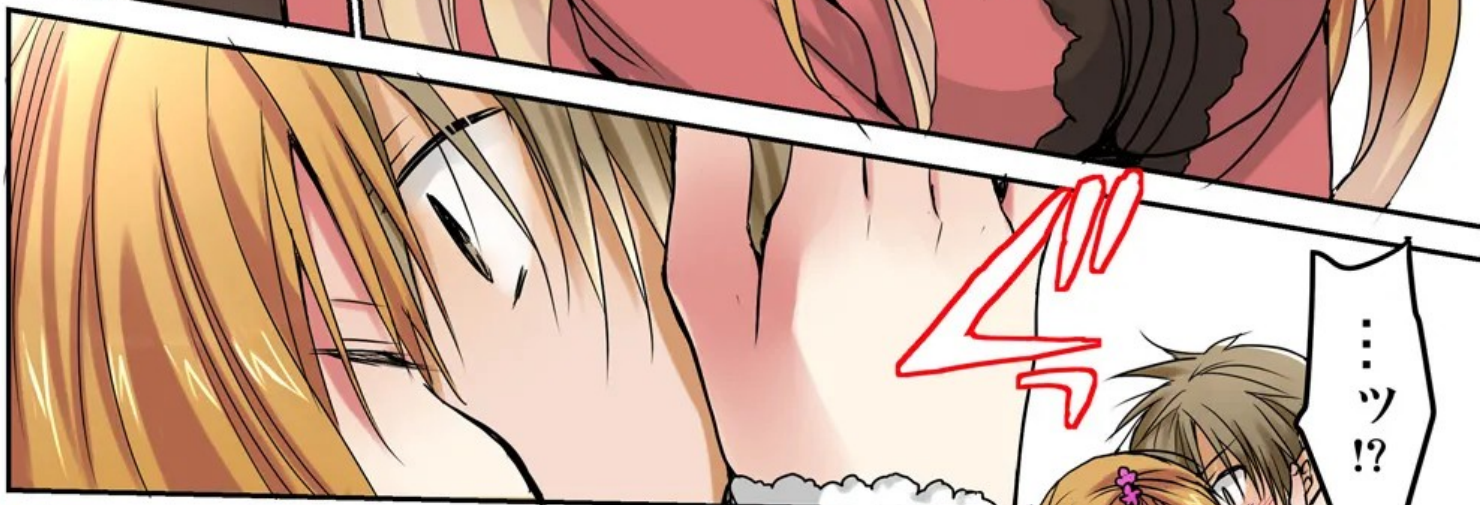
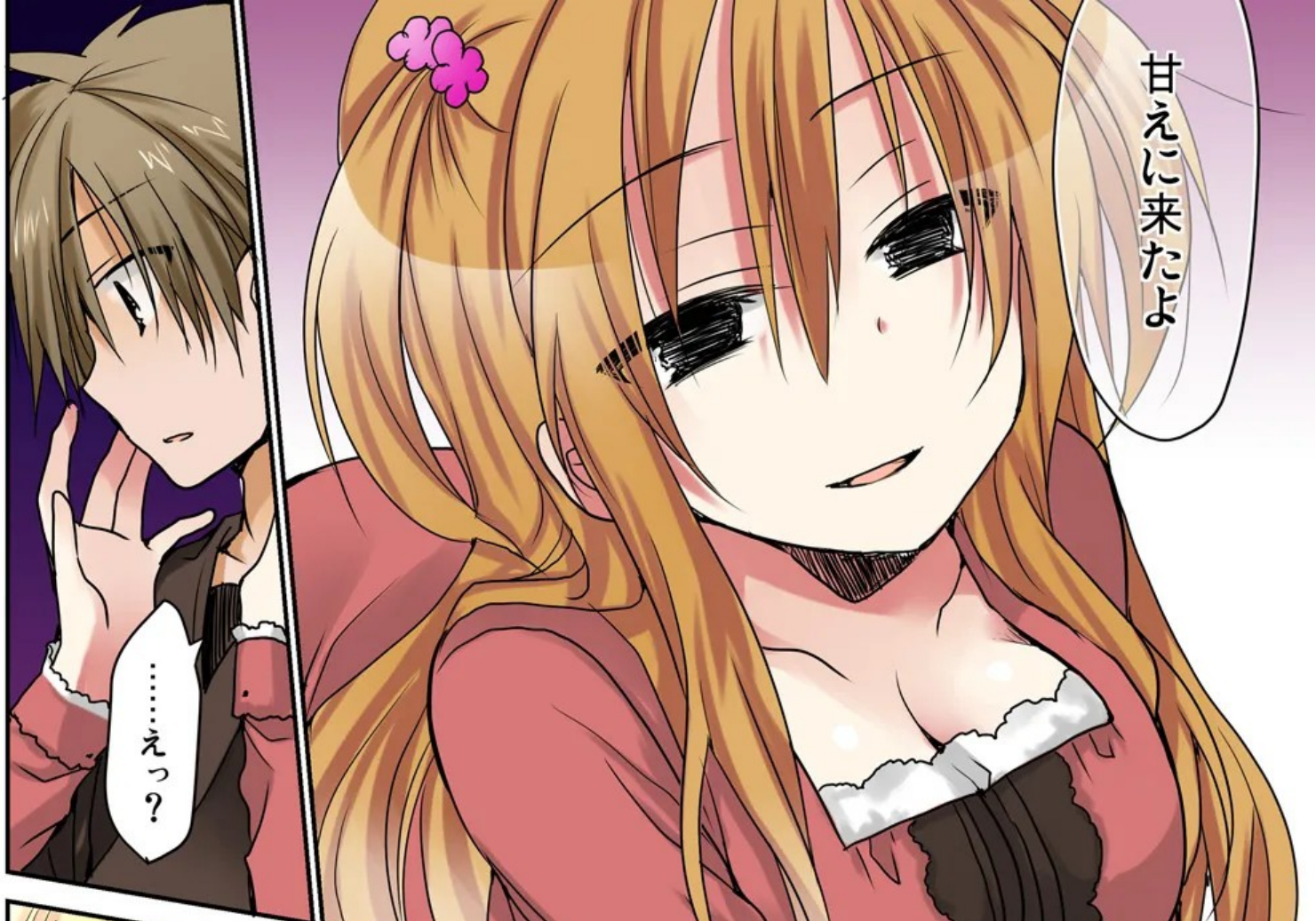
あっ
ちよ
っと
待
って

えっ何？
なにに？

スラスラ
ごめん優
今美希と
話して
いるか
ら
後で
いいか？

お兄ちゃん
言ったよ
ね？
甘えて
いい
って

えっ？





わたしたちは
普通の
兄妹じゃない

…お兄ちゃん

なっ…
何を…っ

男と女
…なんだよ?

スル
スル
スル



どうして?
お兄ちゃん
いつだって
裸のわたしを
優しく
慰めてくれたよ?

ちよつと待
服…っ
頼むから
服着て…

は?
ちよ…っ



……う……
嘘だろ……



固くなった
乳首を爪で
チクチク
いじめるのが
好きだった



おっぱい
優しく
舐め回した後



毎日いっぱい
優しく
かき回して
くれたから



最初は
痛かったけど



そこに
お兄ちゃんの
太い指が
滑りこむの



そしたらね
わたしの子宮が
キュンってな
じわっときて

嘘じゃないよ？



もうこんな
ぐしょぐしょ
になってる



くぱ

あ

……ほら



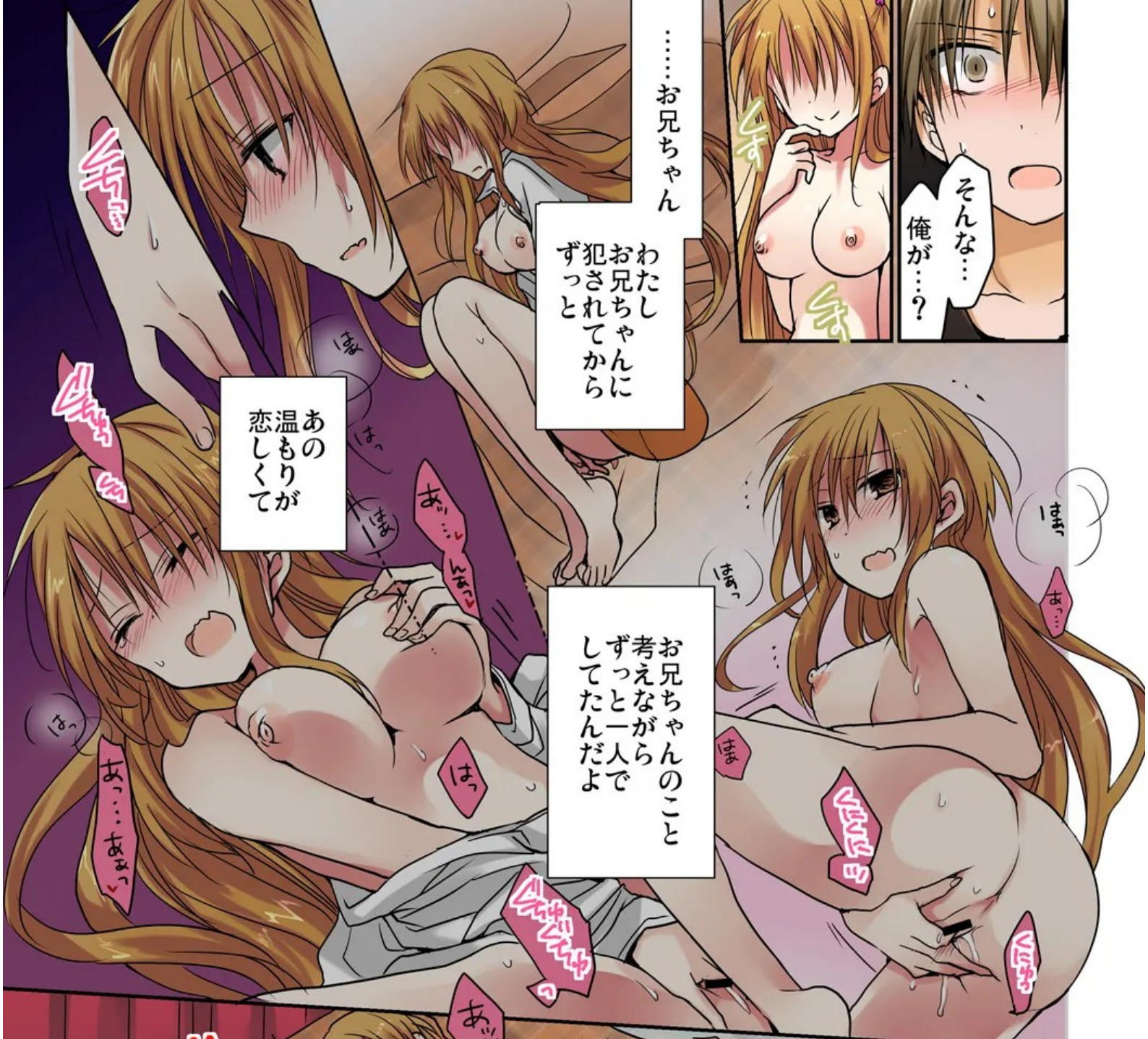
そんな...
俺が...?

.....お兄ちゃん

わたし
お兄ちゃんに
犯されてから
ずっと

あの
温もりが
恋しくて

お兄ちゃんのこと
考えながら
ずっと一人
してたんだよ



それは
気持ちよくて

どうしようもなく
虚しくて

お兄ちゃん...

好き...

わたしもう
お兄ちゃんのを望む
妹には戻れない

いつもみたいに
貫いてよ...

わたしのこと
めちやくちやに
してよおっ...!!

なに...言ってる...

滅茶苦茶だ
何だよそれ

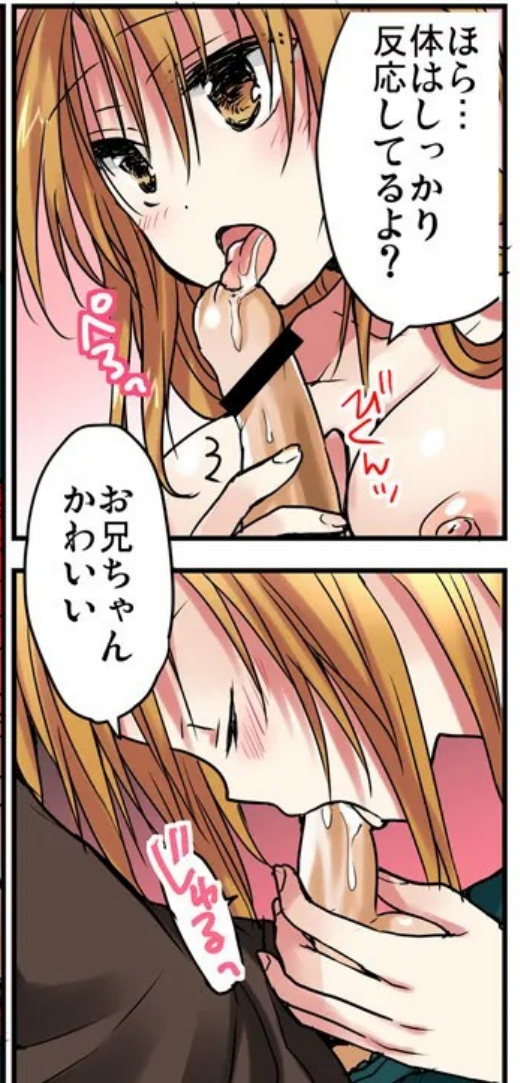
無理に
決まってる
だろ...

妹としてなんた
頭おかしいとか
思えないし

俺には
彼女が
いるんだって

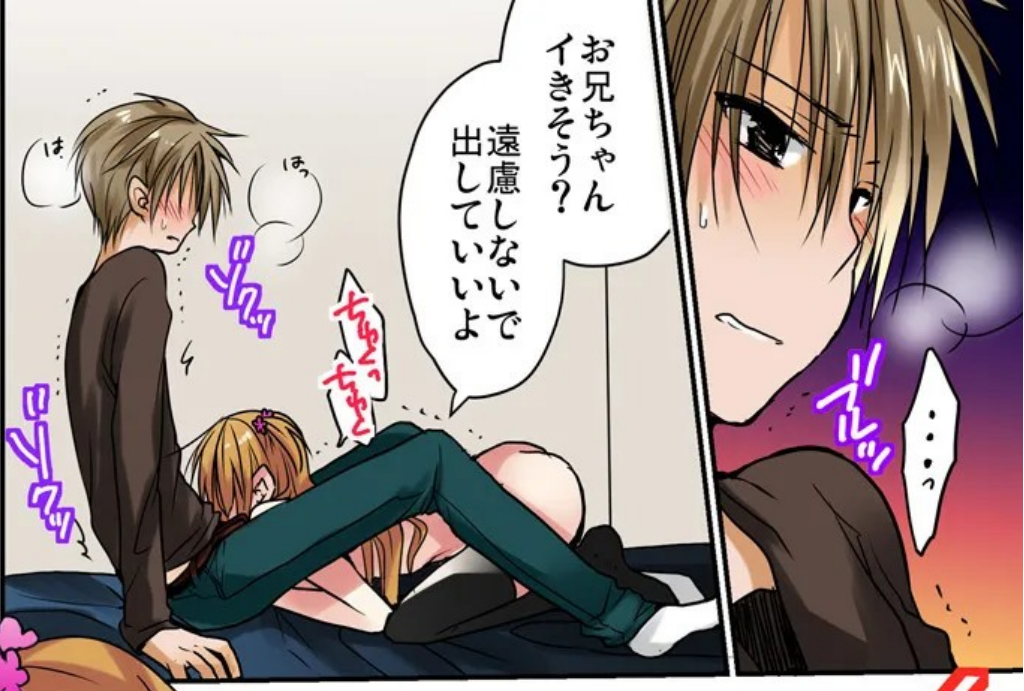
前の俺が
どんなん最低な野郎
だったかなんて
知りたくもない...

優には
悪いけど
今の俺は
違うんだ...!!





わたしの
口の中に...



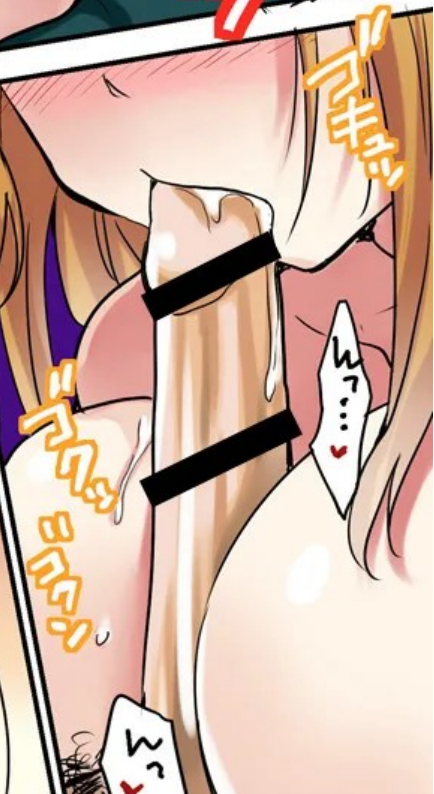
お兄ちゃん
いきそう？
遠慮しないで
出していいよ



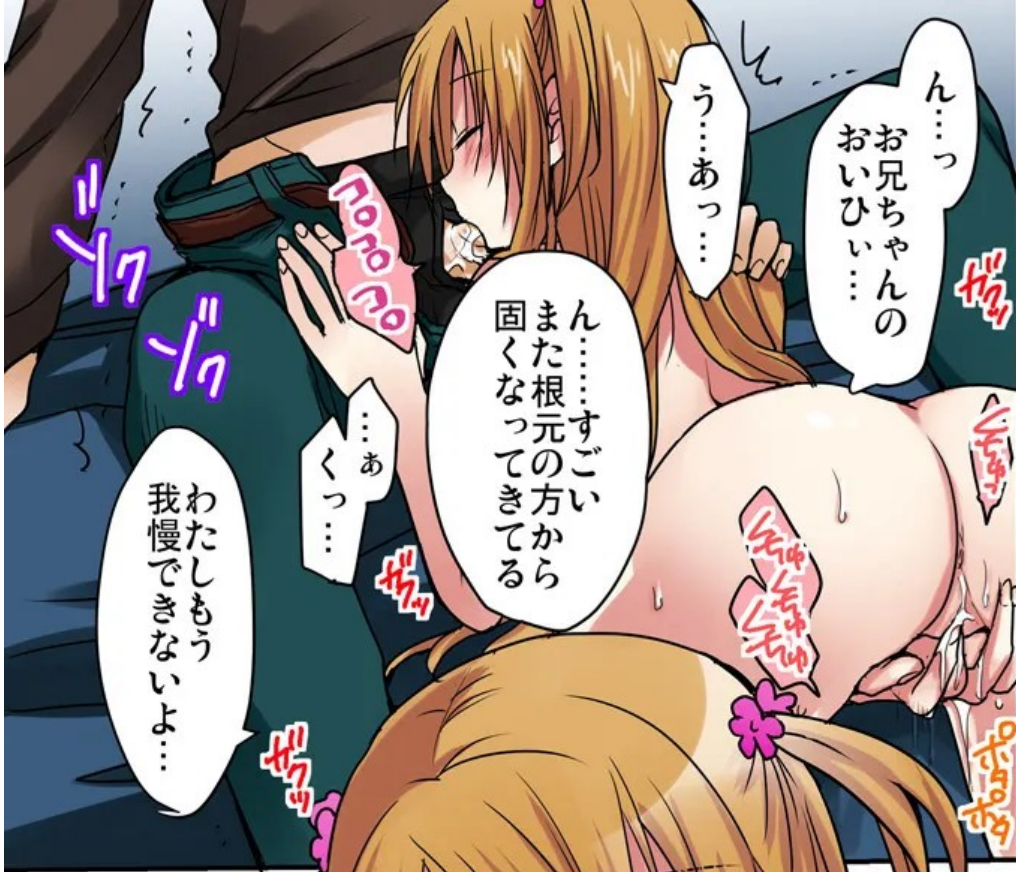
だめだよ？
ちやんと毎日
出さなきゃ



お兄ちゃんの
せーえき...
すっごく
えっちな味がする



...ん



すっきりした
おちんちんも
可愛い♡

綺麗に
したげるね

ん...っ

お兄ちゃんの
おいひい...

う...あっ...

ん...すごい
また根元の方から
固くなってきた

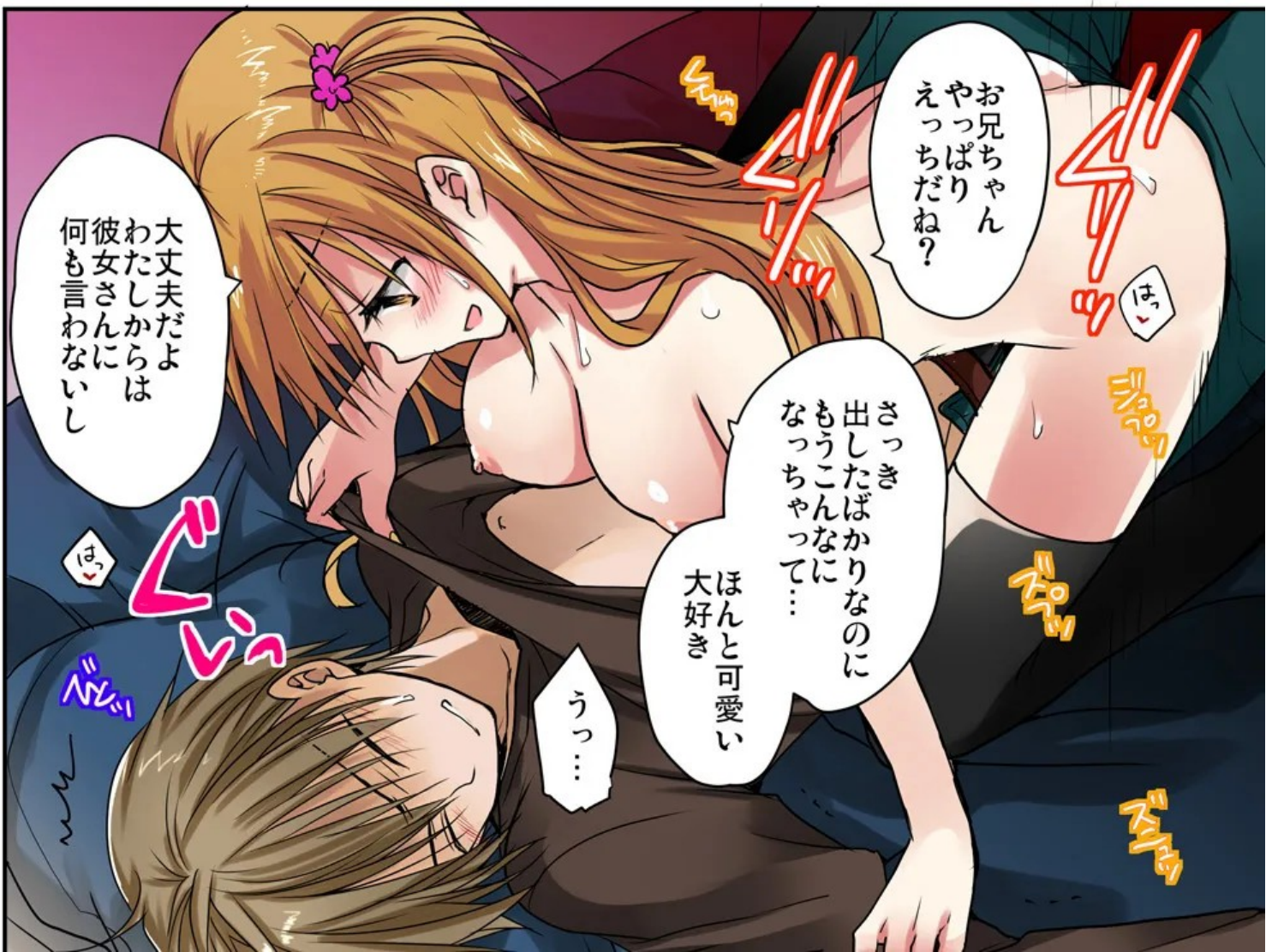
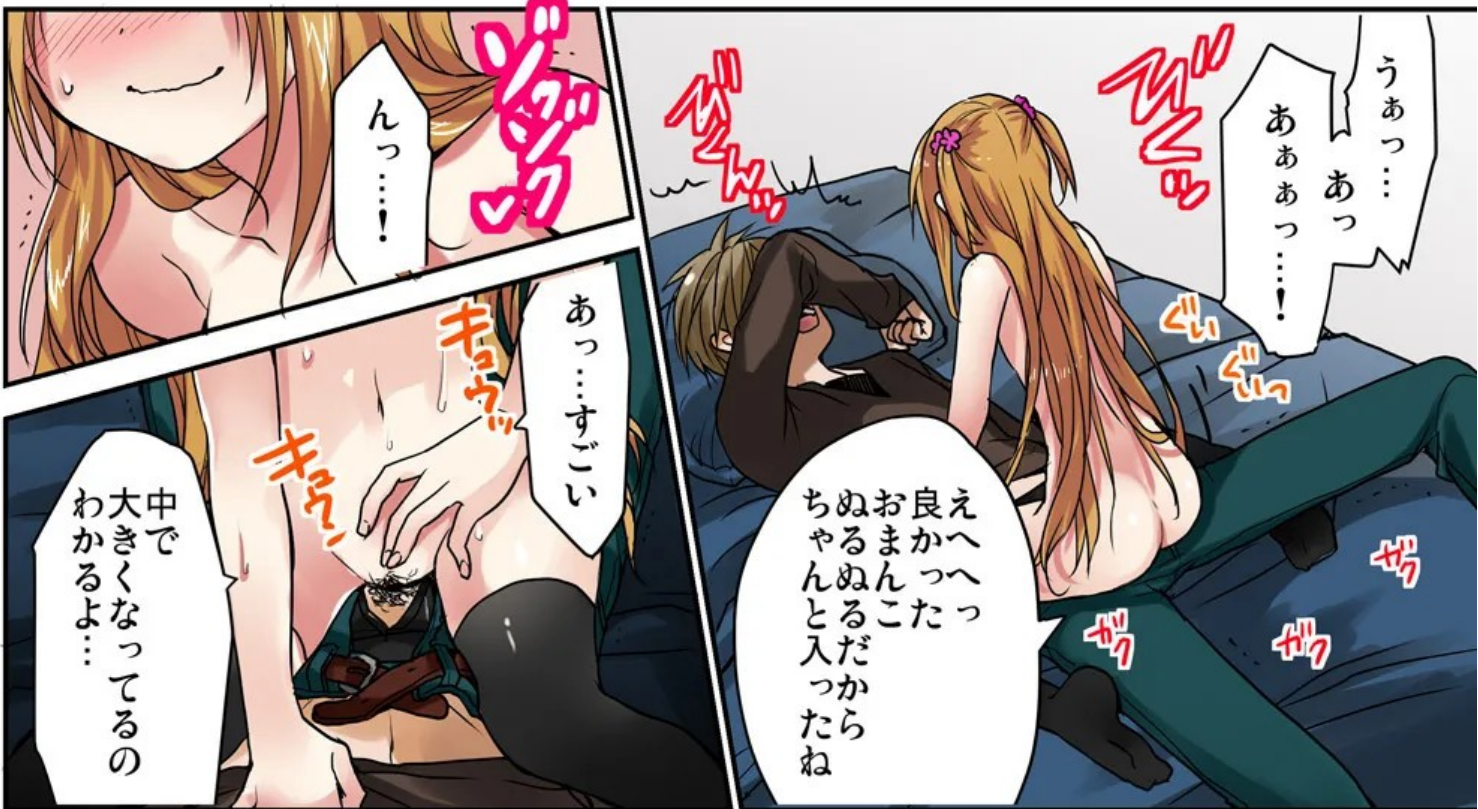
...あ
くっ...

わたしもう
我慢できないよ...

もうやめ...

まだ柔らかいけど
いいよね？
挿れてもいいよね？

今度は一緒に
気持ちよくなる



大丈夫だよ
わたしからは
彼女さんに
何も言わないし

んっ…!

キョウッ

あっ…すごい

中で
大きくなってるの
わかるよ…

キョウッ
キョウッ

えへへっ
良かった
おまんこ
ぬるぬる
ちやんと
入ったから
ね

うあっ…
あっ
あああっ…!

キョウッ

お兄ちゃん
やっぱり
えっちな
だね?

さっき
出したばかりなのに
もうちやっ
なっちゃん
って…

ほんと可愛い
大好き

うっ…

はっ
はっ

キョウッ

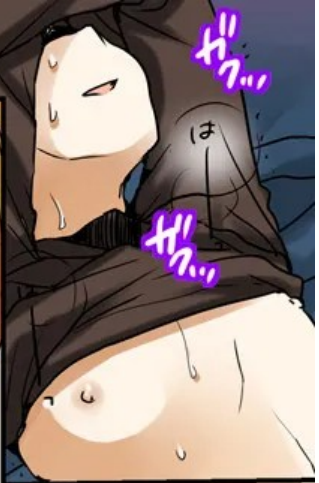


は

…おかえり

は

わたしだけの
お兄ちゃん



は

は

は

は

は

は

あの夜、妹をハメた 感触だけは覚えてる。 第2話

ひびき滯

©ミリオン出版

※本書の一部あるいは全部を無断で複写転載することは法律で禁じられています。

ひびき
き
澁

あの夜、
妹をハメた
感触だけは
覚えてる。

第3話



あああッ

ガッ
ガッ
ガッ

あッ

はあッ

ズンズン
ズンズン
ズンズン

はッ

ズンズン
ズンズン
ズンズン

ズンズン
ズンズン

あッ
あんッ

あうッ
あッ...



わたしは別に
構わないよお？

むしろ皆に
見せたいくらい

ねえッ
美希さんとか
どう思うかなあ？



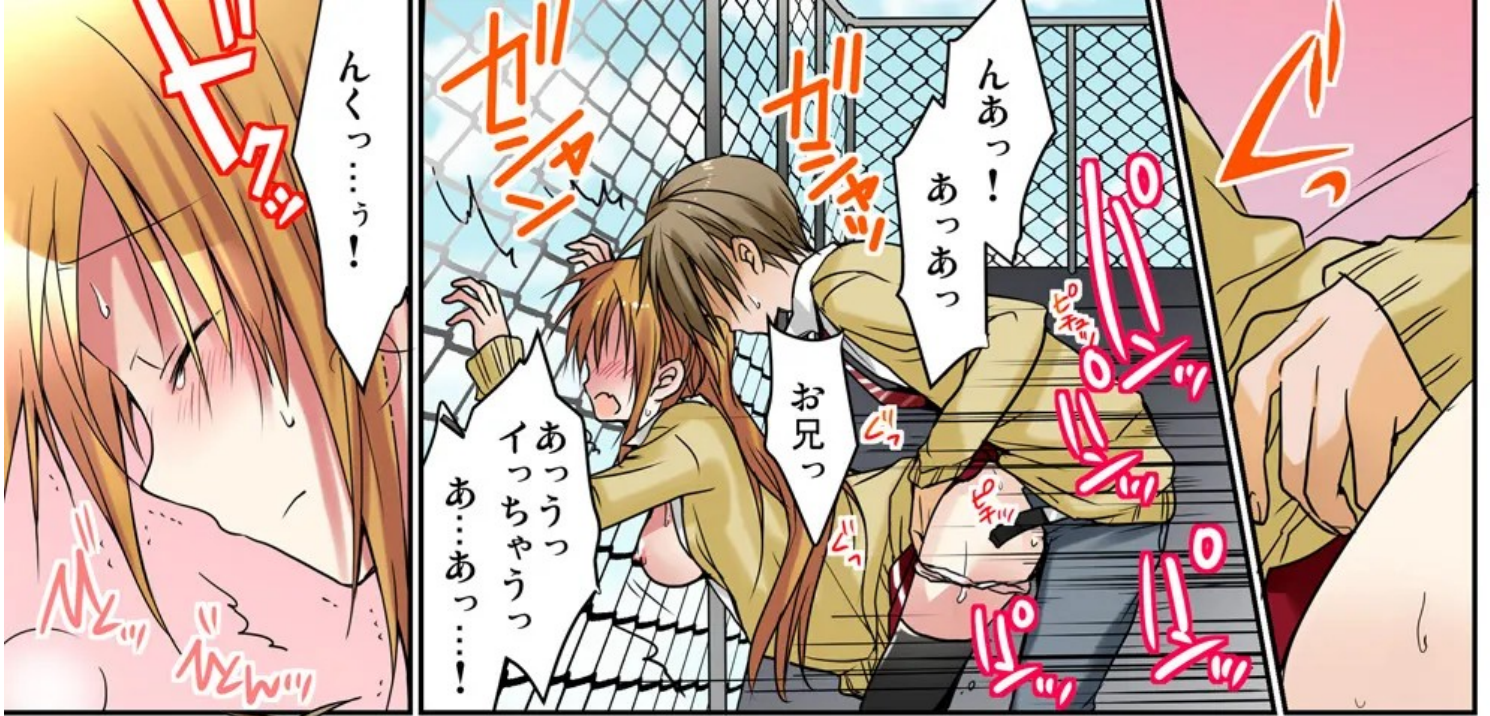
...こんな...
誰か来たら...ッ

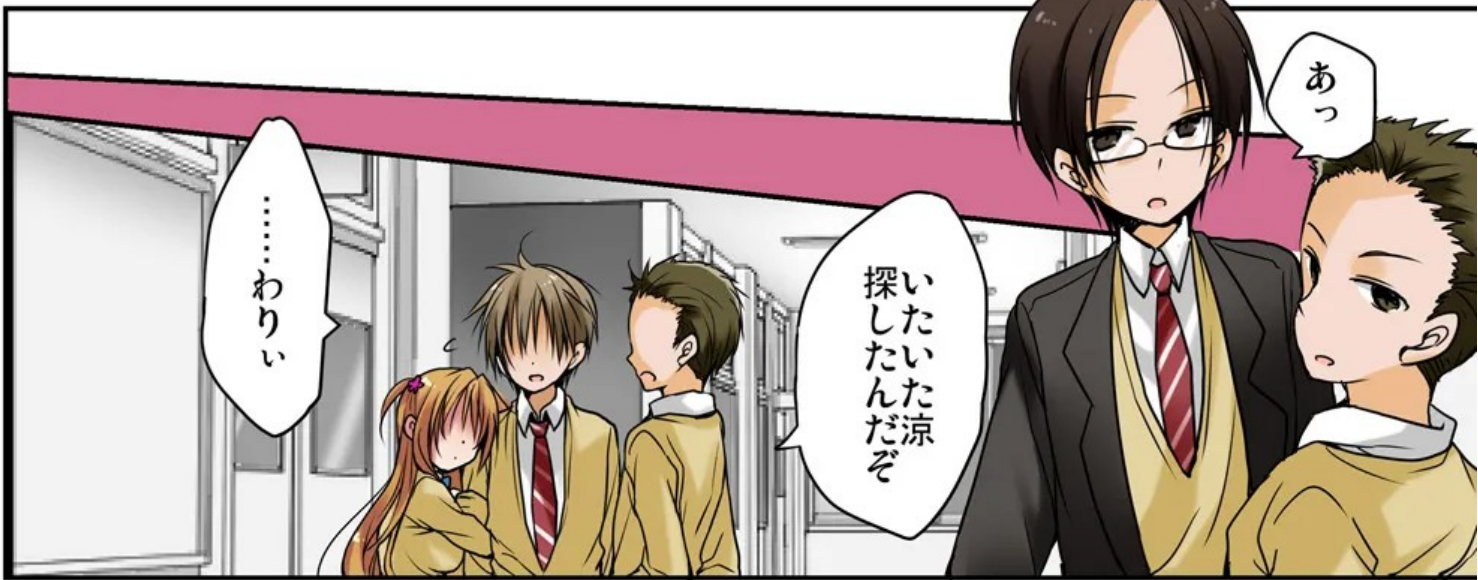


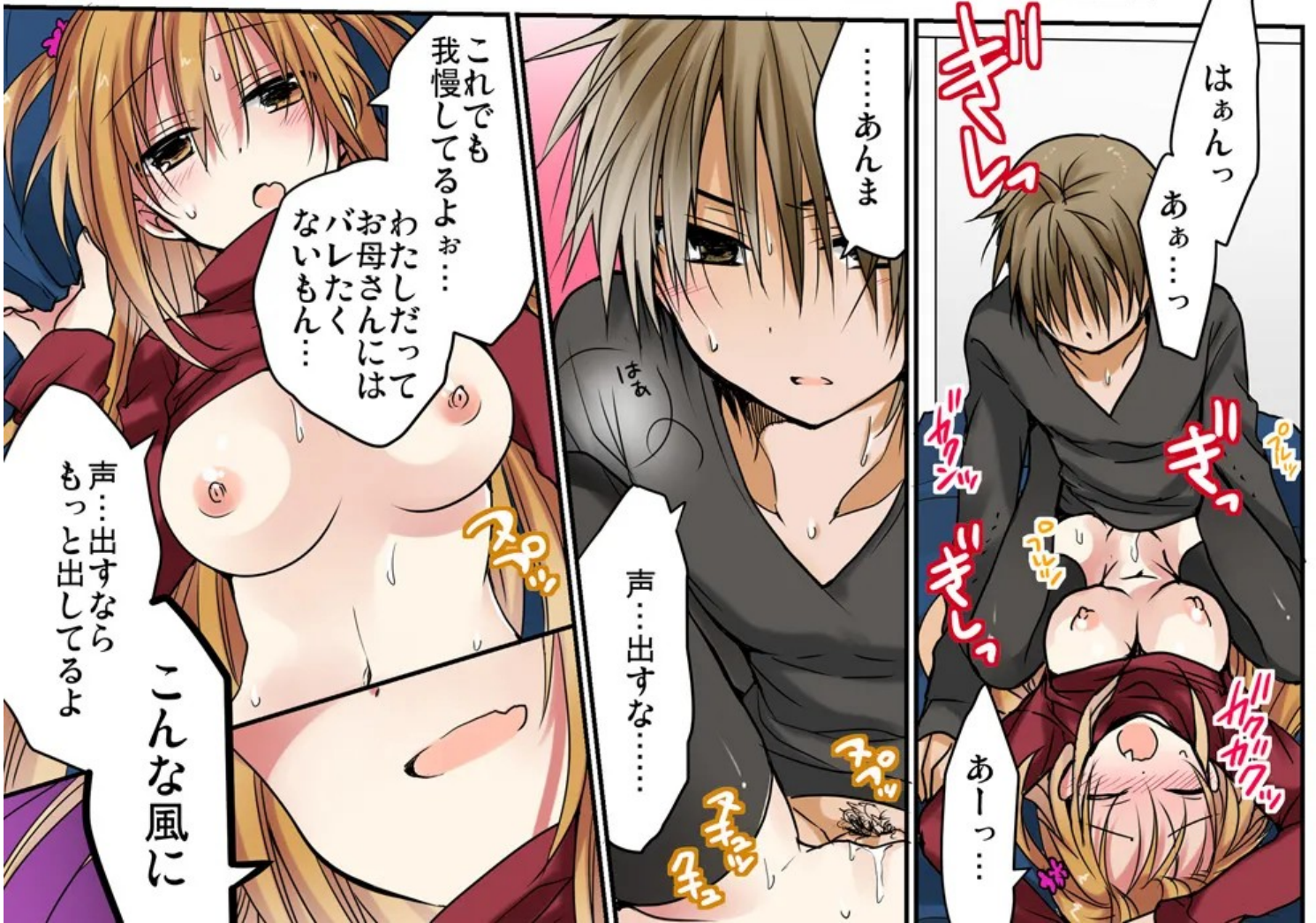
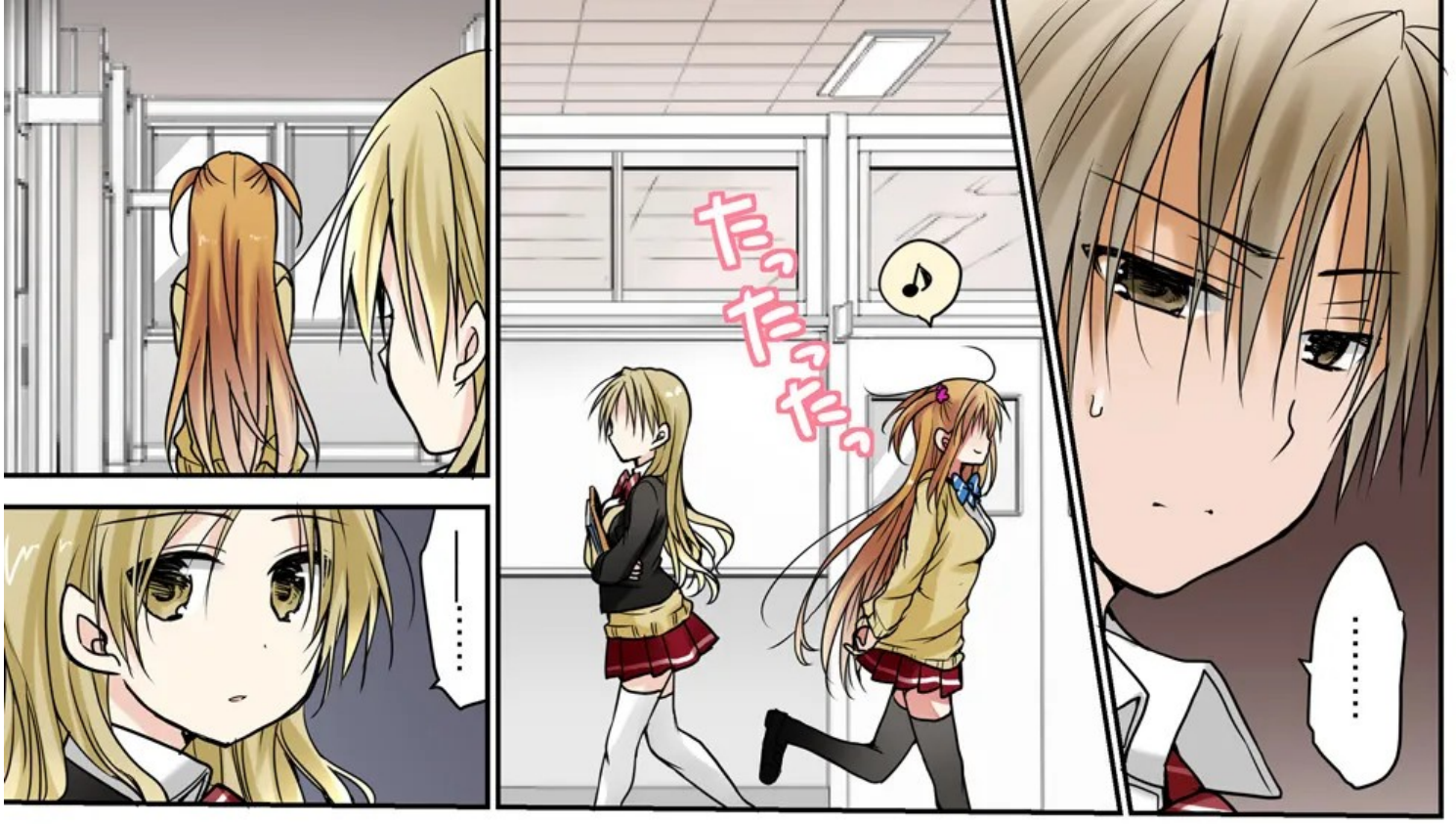
はッ...
やっぱりお外は
気持ちいいねッ

特に学校が一番
興奮...するッ

ズンズン
ズンズン
ズンズン









悪魔…っ!

…の…



あ



わたしをここに
突き堕とした張本人に
悪魔だと
罵られるなんて…

…んっ
ん

あ

んっ…ん

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



んっ…

ん

…最高に
興奮する



ん?

びびり

あれー
涼と優たそだ

一時期離れたと
思ったら
何か前より
仲良くなったよな

うーん...
仲良いつつーか
何か一線越えちゃった
感じするんだよなあ...

ガッ...



本当のことを
教えてほしいの

…美希…

ふたりは本当に
兄妹なの…？

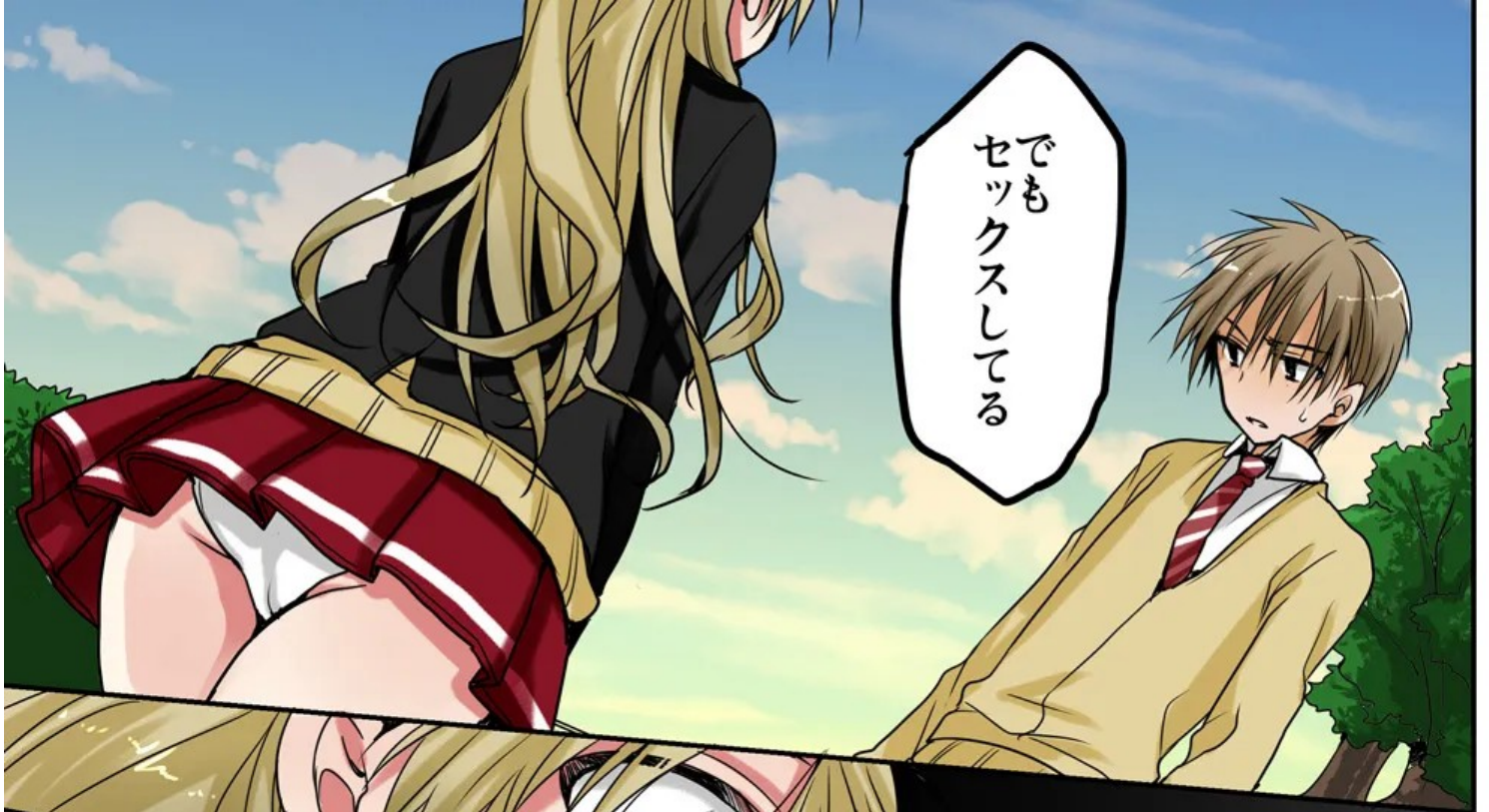


…兄妹だよ



本当のこと
教えてあげなよ
お兄ちゃん

本人もそれを
望んでる
みたいだし？



でも
セックスしてる

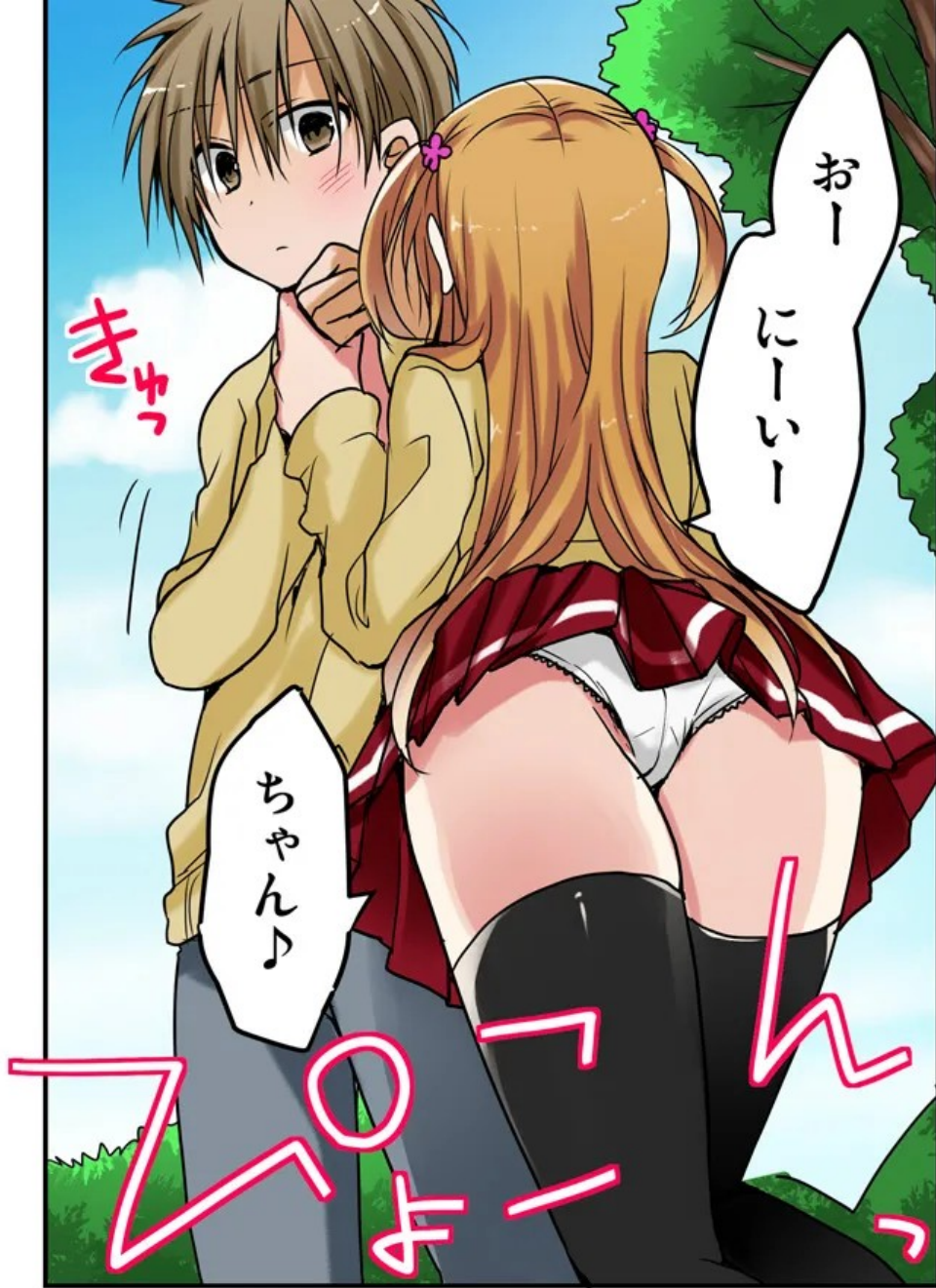


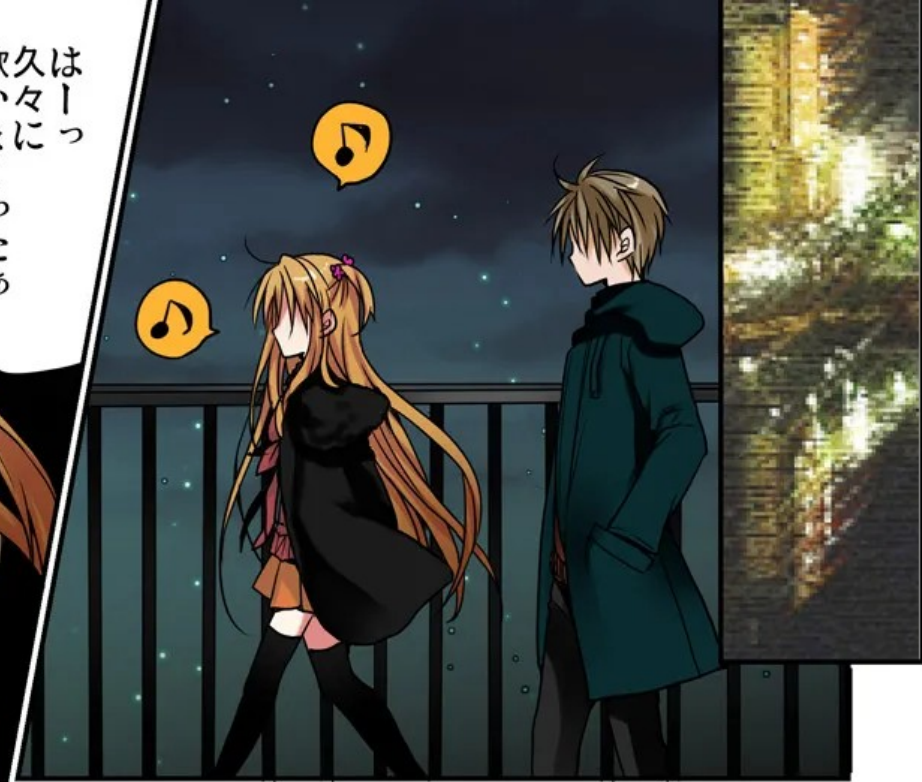
求められれば

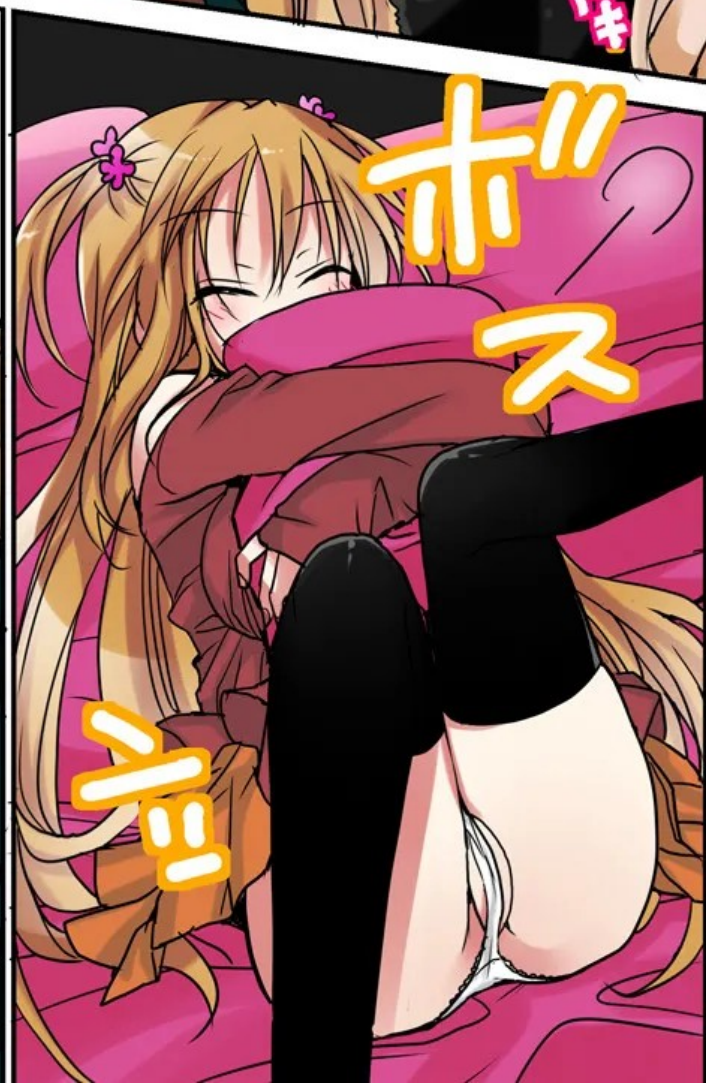
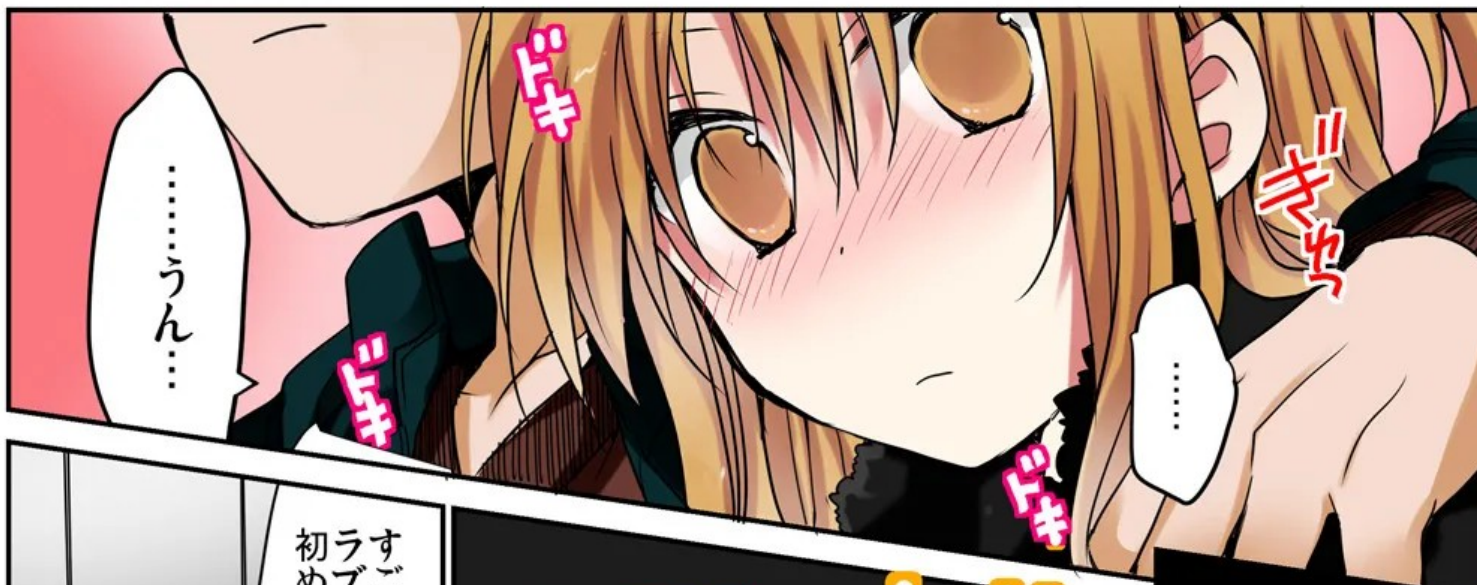
昼でも
夜でも
家でも
外でも

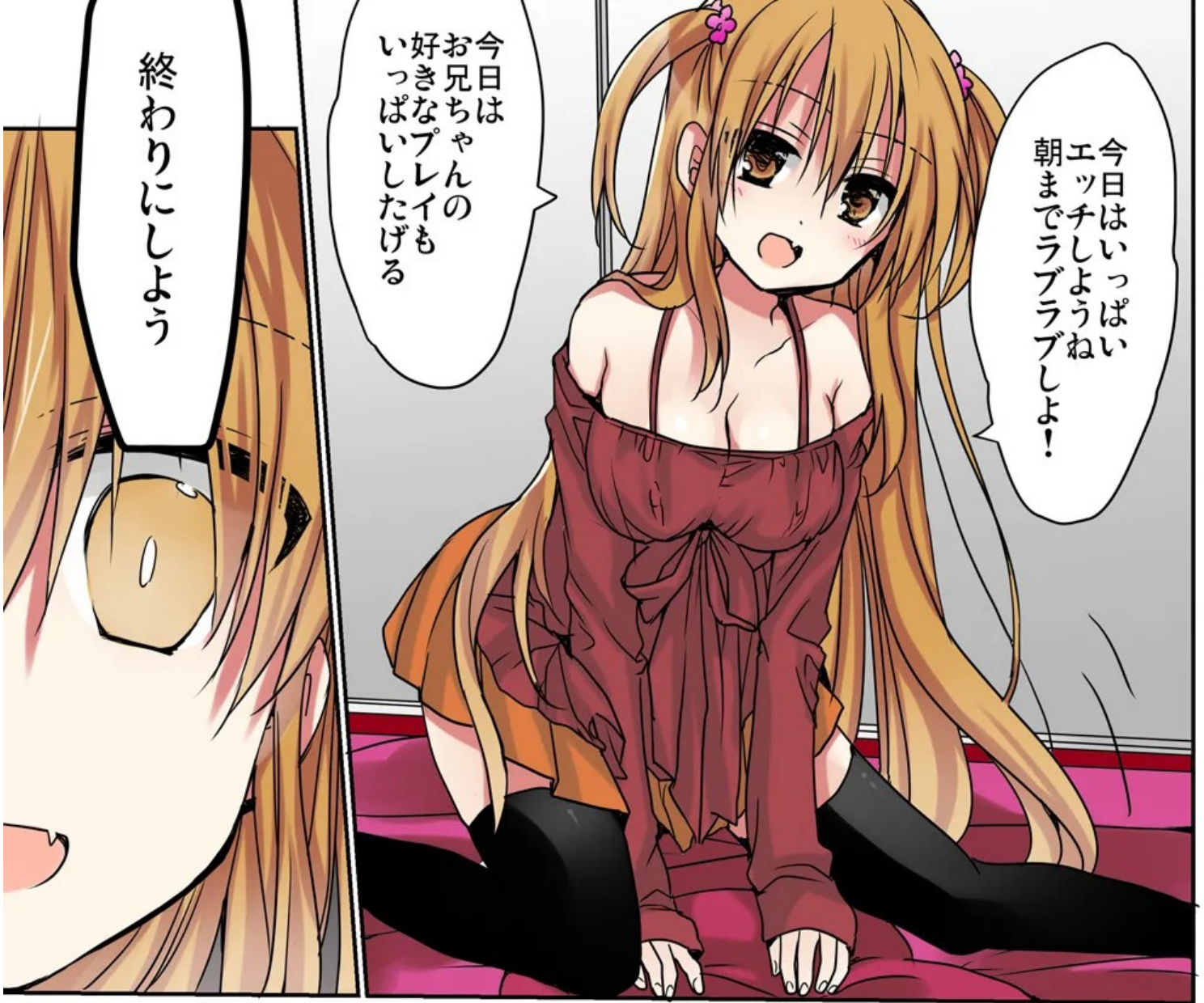
…たとえ
美希の家の前で











今日はいっぱい
エッチしようね
朝までラブラブしよ！

今日は
お兄ちゃんの
好きなプレイも
いっぱいしたげる

終わりにしよう



……えっ？

もう
終わりにしよう
こんな
狂った関係は

美希とも
別れたし

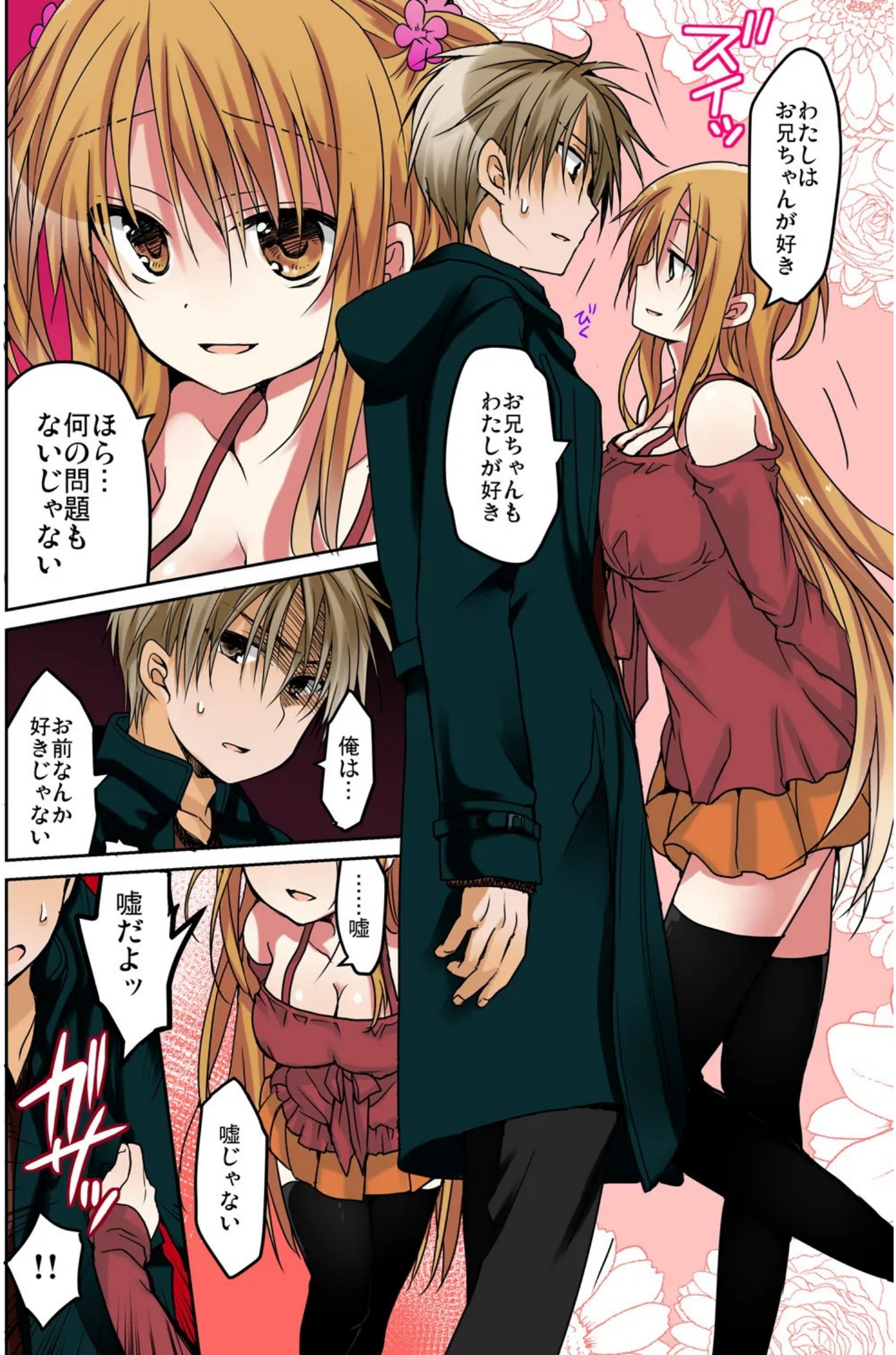
過去の俺が
犯した罪なら
その贖罪は
十分したはずだ

もういいだろ…
お前だってもう
十分俺を玩具にして
遊んだだろ…

お兄ちゃんが
何言ってるのか
わかんない

頼むよ
もう俺を
解放してくれ

普通の生活に
戻らせてくれ…！



わたしは
お兄ちゃんが好き

ブツ
ブツ

お兄ちゃんも
わたしが好き

ほら…
何の問題も
ないじゃない

俺は…
お前なんか
好きじゃない

嘘だよツ
嘘
嘘じゃない
ガッ
!!

じゃあ何で

コート
レシート
のなんか
まだ持
ってる
のか
!?

記憶
がない
のなら
ごん
だの
ねた
だの
!?
だの
のら

捨
てる
機
会
な
ん
か
い
く
ら
で
も
あ
っ
た
か
…
そ
う
で
し
よ
!?



記憶…なくなっ
てしまったんでしょ？

わたしのこと全部
なくなかったこと
に…演技してたんだよね

死ねたら良かったのに…

あの時ちゃんと死ねたらこんな風に二度も優を傷つけないで済んだのに…

ごめんなさい…
本当に守りたいと思っ
てたんだい…
でも同じくらい好きで…
好きで…

その結果がこれだ…
大切な人の人生を…
体を…心を…
俺自身が…
めっちゃくちゃにして

後悔してるんだから…!!

今度こそ本当に兄としてお前を守るから…一生かけて償うから…忘れしてくれ!!

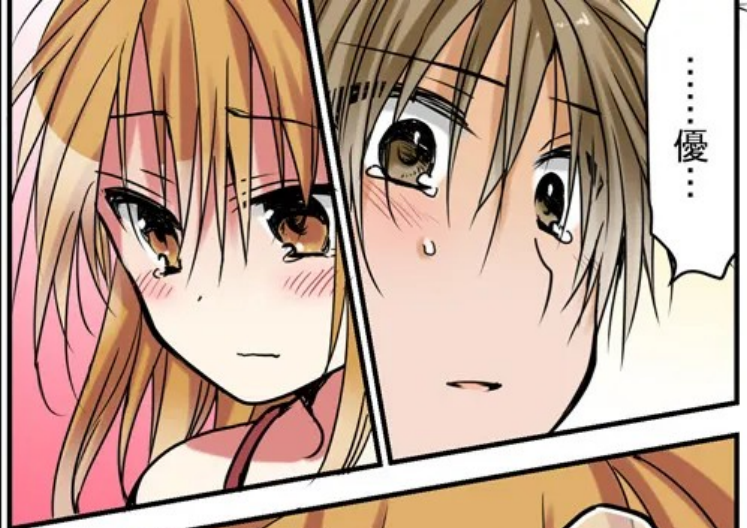
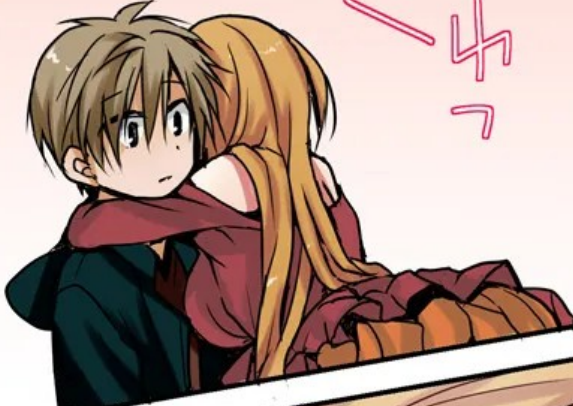
俺みたいなの死に損ないのゴミに執着して人生を棒に振らないでくれ…!!

お兄ちゃんでも許さないから!!

わたしが一番好きな人をゴミ扱いするなんて許さないんだからっ!!

酷いよ…

わたしの大切なものをゴミだなんて決めないで…



優...



...おかえり

わたしだけのお兄ちゃん



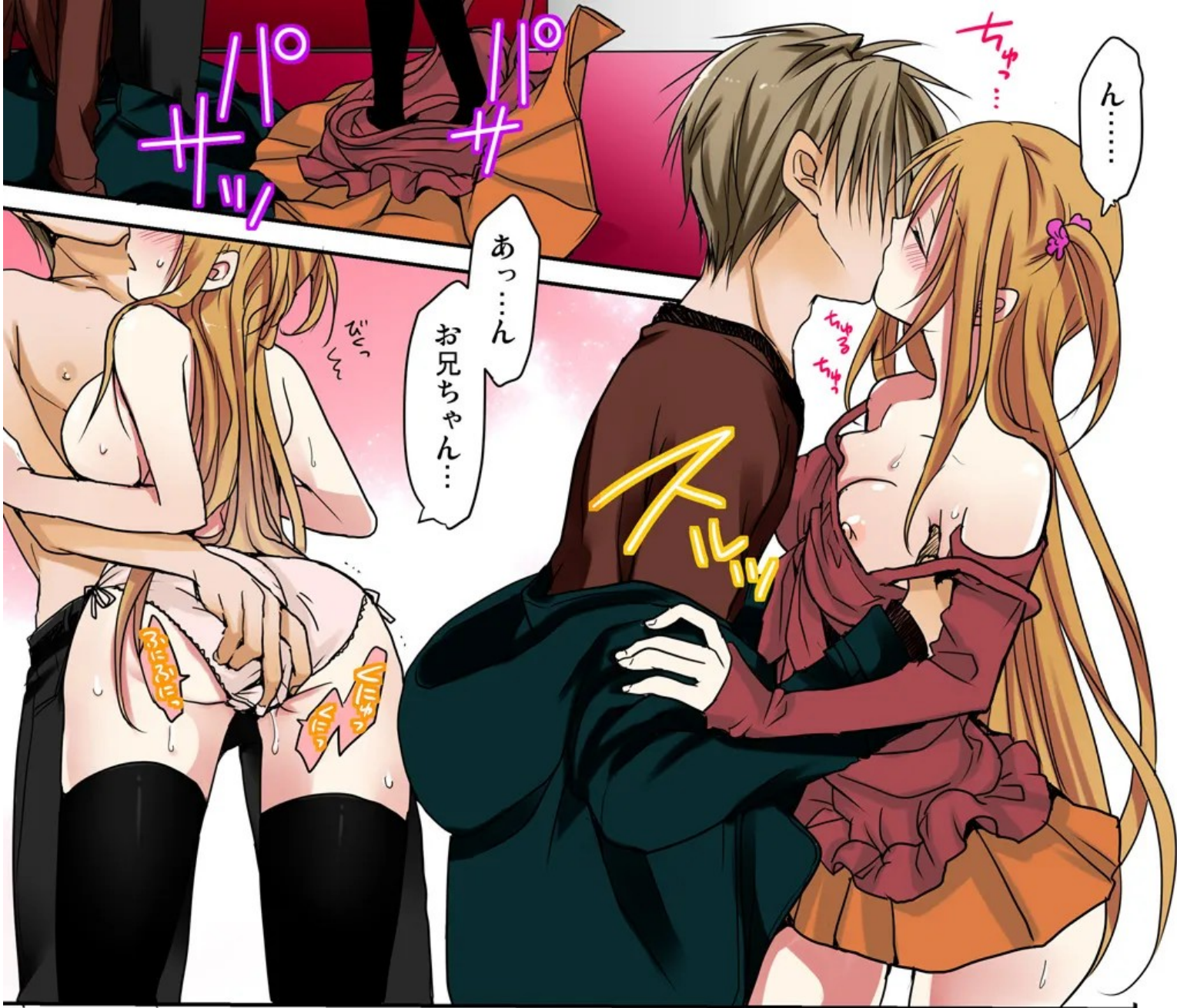
...っ

うっ...

あああ...っ

うわあああああっ...!





ん……

ちゅっ……

ちゅっ
ちゅっ

スル

あっ……ん

お兄ちゃん……

びゅん

パッ
ザッ



挿れて欲しいって
たまらないって
体してる……

俺がずっと
優の体を
弄ってたって話
一瞬信じちゃったよ



……でもこっちは
トロットロに
湿ってるんだよね

びゅん



ほんとお前
肌スベスベだな

え？

スルスル

触り心地が
気持ちいい

びゅん



すごくよく
締まる...

優可愛い

あーっ
あーっ
あーっ

おっ
おっ
おっ



お兄ちゃん
なんか...

妄想の中より
えっちだ...

おっ
おっ
おっ

あーっ
あーっ
あーっ



ん...あ...っ

あっ

あーっ
あーっ
あーっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

や...
なんかこれ
恥ずかしい...

おっ
おっ
おっ

あーっ
あーっ
あーっ

おっ
おっ
おっ



ひゃっ

あっ

おっ
おっ
おっ

あーっ
あーっ
あーっ

あっ当たって...
奥...あああっ!!



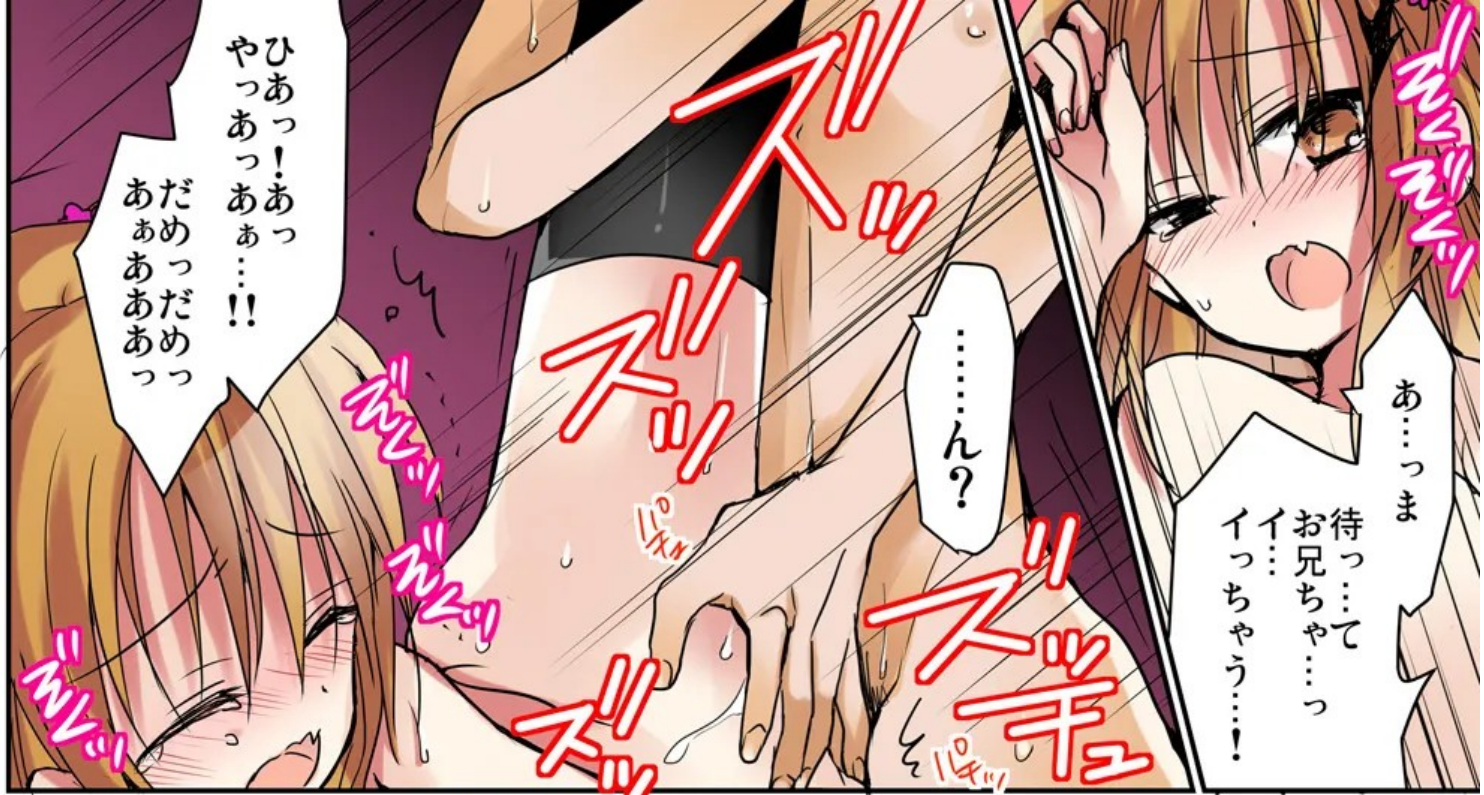
それは...

お互い様

おっ
おっ
おっ

あーっ
あーっ
あーっ

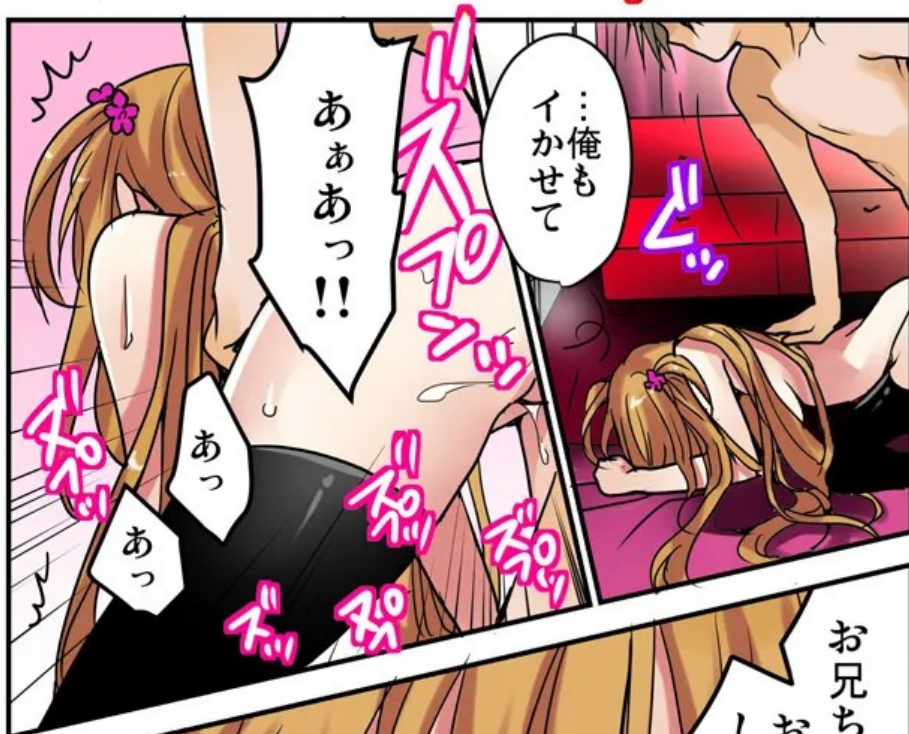
おっ
おっ
おっ



ひあっ! あっ
やっあっ ああ...!!
だめっだめっ
あああああ

.....ん?

あ...つま
待っ...て
お兄ちゃん...っ
イ...
いつちやう...!



あああっ!!

...俺も
イかせて

あっ

あっ



お兄ちゃん...
お兄ちゃん
しゅき...っ

いく...いくよお...
ねえ...また
いつちやうよお...っ!

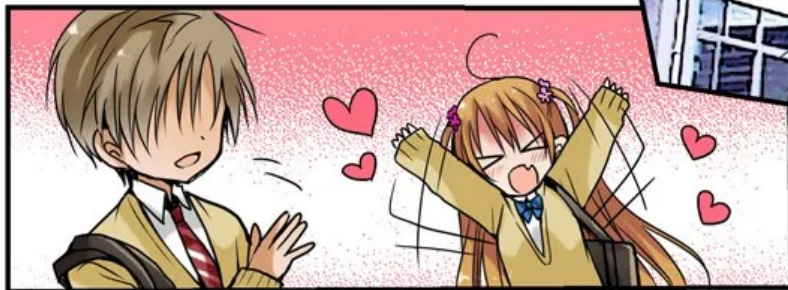


...ッ...あ

あっ...あっ...

...いつちやう...なの?

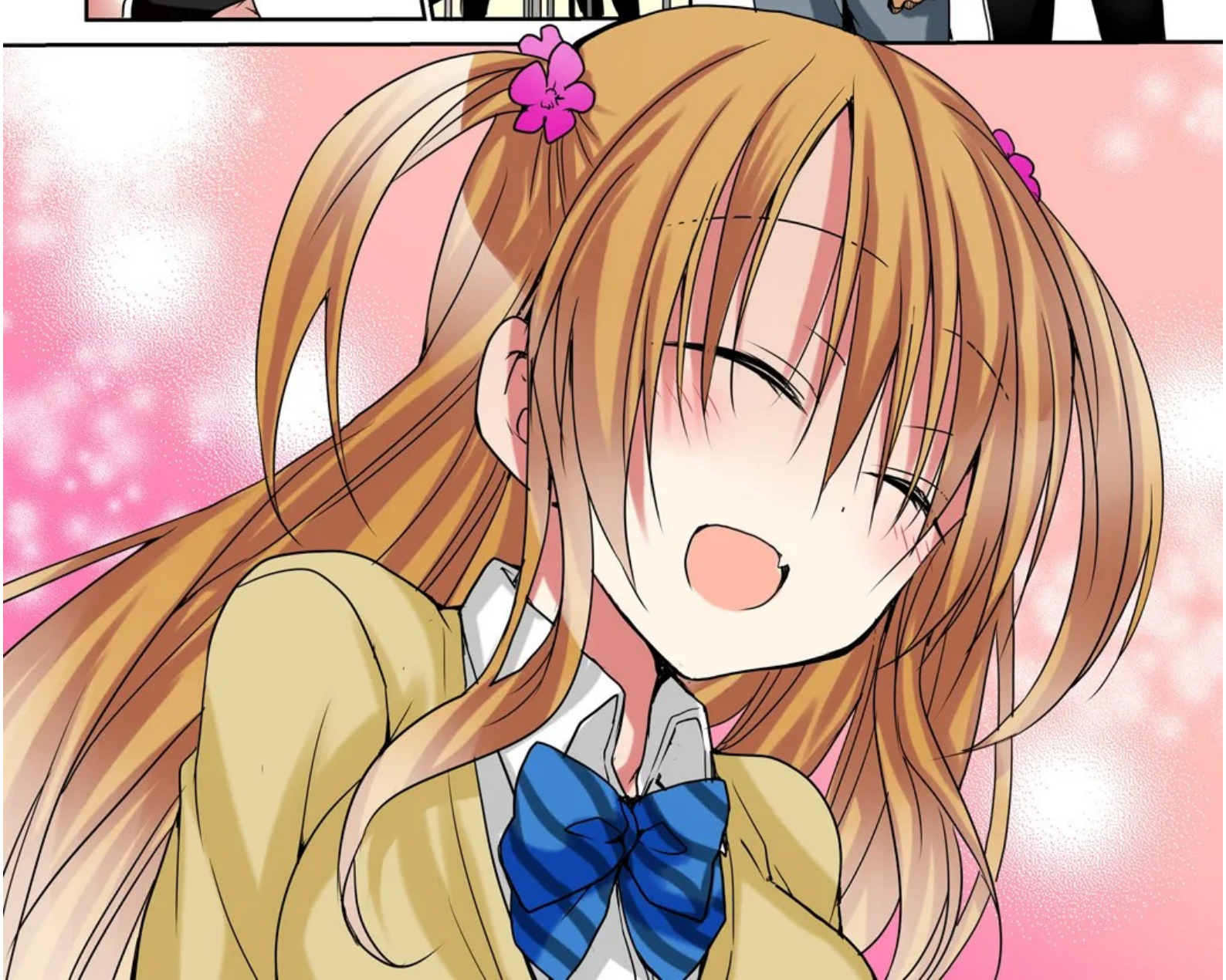
でもまだ
イけるよね
優はえっちなだから



えへへー
ガタン
相変わらず
ラブラブ
ですなあー

じゃあ
待ってるから
迎えに来てね？
分かってるって
じゃあ
また後でな

あんたらは
それが一番
自然な感じ
するよ



あの夜、妹をハメた 感触だけは覚えてる。 第3話

ひびき滯

©ミリオン出版

※本書の一部あるいは全部を無断で複写転載することは法律で禁じられています。